

2024 年度  
琉球大学島嶼地域科学研究所報

# RIIS Annual Report 2024

---



琉球大学  
島嶼地域科学研究所  
Research Institute for Islands and Sustainability

UNIVERSITY OF THE RYUKYUS

〒 903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原 1 番地 | Tel. 098-895-8475 | Fax. 098-895-8308

HP. <https://riis.skr.u-ryukyu.ac.jp/>



# 目次 Index

|                                                            |    |
|------------------------------------------------------------|----|
| 2024 年度所報の発刊にあたって                                          | 1  |
| I . 組 織                                                    | 4  |
| 1. 組織構成図                                                   | 5  |
| 2. 運営組織                                                    | 7  |
| (1) 研究所会議                                                  | 7  |
| (2) 所内委員会組織                                                | 7  |
| 共同利用・共同研究運営委員会                                             |    |
| 協議委員会                                                      |    |
| <i>Okinawan Journal of Island Studies</i> 編集委員会            |    |
| 『島嶼地域科学』編集委員会                                              |    |
| 3. 構成員                                                     | 9  |
| (1) 専任・併任教員                                                | 9  |
| (2) 客員研究員                                                  | 10 |
| II . 研究事業等                                                 | 12 |
| 1. RIIS 主体の研究プロジェクト・事業                                     | 13 |
| (1) 2024 年度テーマ設定型共同研究                                      | 13 |
| 「宮古島と石垣島をつなぐ生活圏の形成」                                        |    |
| 2. 外来研究者との共同研究                                             | 15 |
| 「先史南琉球をモデルとした「モザイク状境界領域」の形成に関する研究」                         |    |
| 3. 公募型共同研究・個人型共同利用                                         | 19 |
| 4. 出版物                                                     | 21 |
| 定期刊行物（ジャーナル・学術雑誌）                                          | 21 |
| 『 <i>Okinawan Journal of Island Studies</i> (OJIS), Vol.6』 |    |
| 学術雑誌『島嶼地域科学』 第 5 号                                         |    |
| 5. 研究成果の発信と普及                                              | 25 |
| (1) 研究資源データベース                                             | 25 |
| (2) 共通教育科目「島嶼地域科学入門」（後学期・水曜日 1 限）                          | 26 |
| (3) セミナー・シンポジウム等                                           | 27 |
| RIIS レクチャーシリーズ                                             |    |
| 琉球大学附属図書館学外企画展への協力                                         |    |
| 6. 部局間交流協定の締結                                              | 31 |

|                                                            |    |
|------------------------------------------------------------|----|
| Ⅲ . 教員の研究・教育活動                                             | 34 |
| 1. 研究業績（専任・併任教員）                                           | 35 |
| 2. 教育活動（専任教員）                                              | 45 |
| 【琉球大学における教育活動：学部教育】                                        |    |
| 【琉球大学における教育活動：大学院教育】                                       |    |
| 【琉球大学における教育活動：研究指導大学院生，研究生等の受入】                            |    |
| 【学外における教育活動】                                               |    |
| 3. 社会連携（専任教員）                                              | 49 |
| 【社会活動・地域貢献（学外団体委員等）】                                       |    |
| 【国際活動・国際協力等】                                               |    |
| 【所属学会】                                                     |    |
| Ⅳ . 外部資金等研究費獲得状況                                           | 52 |
| 1. 科学研究費助成事業                                               | 53 |
| 2. その他競争的資金                                                | 57 |
| 3. 受託研究                                                    | 58 |
| Ⅴ . 研究所運営                                                  | 60 |
| 1. 研究所会議                                                   | 61 |
| 2. 所内委員会組織                                                 | 63 |
| (1) 共同利用・共同研究運営委員会                                         | 63 |
| (2) 協議委員会                                                  | 63 |
| (3) <i>Okinawan Journal of Island Studies (OJIS)</i> 編集委員会 | 64 |
| (4) 『島嶼地域科学』編集委員会                                          | 64 |
| 3. 専任教員ミーティング                                              | 65 |
| 4. 広報                                                      | 66 |
| Ⅵ . 付属資料                                                   | 68 |
| 1. RIIS レクチャーシリーズ 2024 ポスター                                | 69 |

## 2024 年度所報の発刊にあたって

2024 年度島嶼地域科学研究所所報の発刊にあたり、ご挨拶申し上げます。島嶼地域科学研究所 (Research Institute for Islands and Sustainability) となって 7 年目を迎えたこの年、新型コロナウイルスの感染対策による研究活動の中断は解消され、私どもは従来と同様の研究活動を積極的に前進させてまいりました。



学外の島嶼地域研究者との連携拡充を目的とする公募型の共同利用・共同研究事業については、残念ながら諸般の事情により募集を見送ることといたしました。本研究所を拠点とした島嶼研究を継続的に強化していくために「レクチャーシリーズ」を積極的に企画・開催するとともに、「テーマ設定型共同研究」を継続することによって新たな研究課題への着手を促進してまいりました。

本研究所の国際的な活動としては、台湾の虎尾科技大学との部局間交流協定を更新するとともに台北科技大学との部局間交流協定を新たに締結して、隣接する島嶼地域間での研究交流や共同研究を進めていくための環境整備につとめてまいりました。その他にも、各分野において世界各国の研究者等と交流してまいりました。詳細は本所報の本文をご高覧ください。

本研究所は、2019 年度以来、英文査読誌 Okinawan Journal of Island Studies (OJIS) と和文査読誌『島嶼地域科学』を発刊してまいりました。前者は世界の著名な島嶼地域研究者をアドバイザリーボードに迎え、2025 年 3 月に第 6 号（スペシャル号）を発刊いたしました。和文誌『島嶼地域科学』は J-STAGE で公開するオンラインジャーナルとして発刊しており、2024 年 6 月に第 5 号を発刊いたしました。両誌とも電子版で公開しており、世界に向けて発信しております。

2024 年度は、専任教員 5 名（教授 3 名、准教授 1 名、講師 1 名）で組織運営にあたりました。また、他学部から本研究所の研究や運営に参画している 21 名の併任教員の尽力によって、研究所の活動は支えられています。こうした全学的な協力体制によって、研究所としての実績を積み重ねることができています。

多様で複雑な島嶼地域を研究対象とするうえで、トランスディシプリナリー（超学際）な研究態度をもって複数の学問分野の理論や方法論を統合し、それと同時に非専門家（地域住民等）の経験知や生活知を統合していくことが非常に重要であると考えております。多分野・多組織による連携を通し

て、島嶼の実際と将来を探究し、「島嶼地域科学」の確立に向けて邁進する所存です。引き続き島嶼地域科学研究所に対するご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

2025 年 10 月 1 日

国立大学法人 琉球大学  
研究共創機構 島嶼地域科学研究所  
所長 鳥山 淳

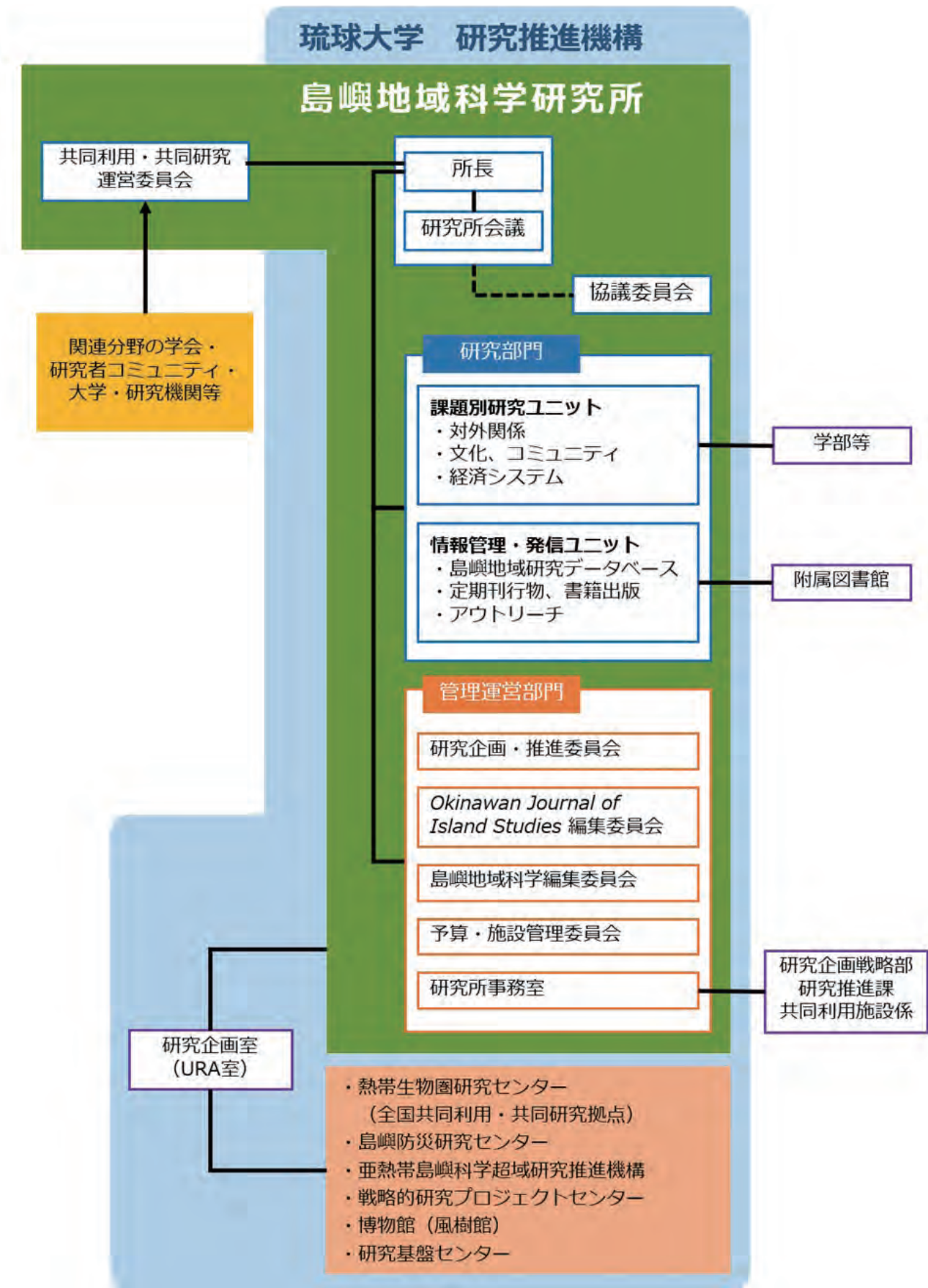


## Ⅰ．組 織

---

1. 組織構成図
2. 運営組織
3. 構成員

1. 組織構成図





## 2. 運営組織

### (1) 研究所会議

- 波多野 想（島嶼地域科学研究所／所長・教授） 議長
- 鳥山 淳（島嶼地域科学研究所／副所長・教授）
- 藤田 陽子（島嶼地域科学研究所／副所長・教授）
- 池上 大祐（国際地域創造学部／准教授）
- 喜納 育江（国際地域創造学部／教授）
- 宜野座 綾乃（島嶼地域科学研究所／准教授）
- 宮内 久光（国際地域創造学部／教授）
- 山極 海嗣（島嶼地域科学研究所／講師）

### (2) 所内委員会組織

#### 共同利用・共同研究運営委員会

- 波多野 想（島嶼地域科学研究所／所長・教授） 1号委員・委員長
- 鳥山 淳（島嶼地域科学研究所／教授） 2号委員
- 松崎 吾朗（琉球大学熱帯生物圏研究センター／教授） 3号委員
- 河合 溪（鹿児島大学国際島嶼教育研究センター／副センター長・教授） 4号委員
- 小嶋 洋輔（名桜大学環太平洋地域文化研究所／所長・教授） 4号委員
- 任期：2024年4月1日～2026年3月31日
- 中俣 均（法政大学／名誉教授） 4号委員
- 任期：2022年4月1日～2025年2月28日
- 梅村 哲夫（名古屋大学大学院国際開発研究科／教授） 4号委員
- 任期：2025年3月10日～2026年3月31日

#### 協議委員会

- 波多野 想（島嶼地域科学研究所／所長・教授） 1号委員・委員長
- 鳥山 淳（島嶼地域科学研究所／副所長・教授） 2号委員
- 藤田 陽子（島嶼地域科学研究所／副所長・教授） 2号委員
- 宜野座 綾乃（島嶼地域科学研究所／准教授） 3号委員
- 本村 真（人文社会学部／教授） 4号委員
- 宮平 勝行（国際地域創造学部／教授） 4号委員
- 山元 貴継（教育学部／准教授） 4号委員
- 瓜生 康史（理学部／教授） 4号委員
- 小林 潤（医学部／教授） 4号委員

押川 渡（工学部／教授）4号委員  
木島 真志（農学部／教授）4号委員

任期：2024年4月1日～2026年3月31日

### ***Okinawan Journal of Island Studies*** 編集委員会（第6号）

藤田 陽子（島嶼地域科学研究所／教授）編集委員長  
宮國 薫子（国際地域創造学部／准教授）編集委員  
山極 海嗣（島嶼地域科学研究所／講師）編集委員  
Timothy Kelly（名桜大学非常勤講師）編集委員

### 『島嶼地域科学』編集委員会（第5号）

鳥山 淳（島嶼地域科学研究所／教授）編集長  
宮内 久光（国際地域創造学部／教授）編集委員  
當山 奈那（人文社会学部／准教授）編集委員

### 『島嶼地域科学』編集委員会（第6号）

鳥山 淳（島嶼地域科学研究所／教授）編集長  
宮内 久光（国際地域創造学部／教授）編集委員  
當山 奈那（人文社会学部／准教授）編集委員  
山極 海嗣（島嶼地域科学研究所／講師）編集委員

3. 構成員

(1) 専任・併任教員

| 役職 / 氏名                   | 専門分野                    | 所属 / 職名       |
|---------------------------|-------------------------|---------------|
| 所長 (Director)             |                         |               |
| 波多野 想 (So Hatano)         | 建築史学・文化遺産学・ランドスケープ研究    | 島嶼地域科学研究所／教授  |
| 副所長 (Associate Director)  |                         |               |
| 藤田 陽子 (Yoko Fujita)       | 環境経済学                   | 島嶼地域科学研究所／教授  |
| 鳥山 淳 (Atsushi Toriyama)   | 沖縄現代史                   | 島嶼地域科学研究所／教授  |
| 専任教員 (Full-time Faculty)  |                         |               |
| 宜野座 綾乃 (Ayano Ginoza)     | アメリカ研究・ジェンダー学・軍事主義の文化研究 | 島嶼地域科学研究所／准教授 |
| 山極 海嗣 (Kaishi Yamagiwa)   | 考古学・人類学                 | 島嶼地域科学研究所／講師  |
| 併任教員 (Concurrent Faculty) |                         |               |
| 池上 大祐 (Daisuke Ikegami)   | 西洋史学・地域史と戦争記憶           | 国際地域創造学部／准教授  |
| 大島 順子 (Junko Oshima)      | 地域・環境教育論                | 国際地域創造学部／准教授  |
| 大湾 知子 (Tomoko Owan)       | 成人・がん看護学                | 医学部／准教授       |
| 瀬口 浩一 (Koichi Osoguchi)   | 財政学                     | 国際地域創造学部／教授   |
| 越智 正樹 (Masaki Ochi)       | 観光社会学・農村社会学・地域社会学       | 国際地域創造学部／教授   |
| 漢那 洋子 (Yoko Kanna)        | 光化学・有機物理化学              | 理学部／准教授       |
| 喜納 育江 (Ikue Kina)         | アメリカ文学・ジェンダー研究          | 国際地域創造学部／教授   |
| 金城 ひろみ (Hiromi Kinjo)     | 中国語学                    | 人文社会学部／准教授    |
| 小林 潤 (Jun Kobayashi)      | 国際保健                    | 医学部保健学科／教授    |
| 鈴木 規之 (Noriyuki Suzuki)   | 国際社会学                   | 人文社会学部／教授     |
| 淡野 将太 (Syota Tanno)       | 教育心理学                   | 教育学部学校教育／准教授  |
| 當山 奈那 (Nana Tohyama)      | 琉球語学                    | 人文社会学部／准教授    |
| 内藤 重之 (Shigeyuki Naito)   | 農業経済学                   | 農学部／教授        |
| 野入 直美 (Naomi Noiri)       | 社会学                     | 人文社会学部／教授     |

|                            |                |                |
|----------------------------|----------------|----------------|
| 廣瀬 孝 (Takashi Hirose)      | 自然地理学・水文地形学    | 国際地域創造学部／教授    |
| 古川 卓 (Takashi Furukawa)    | 臨床心理学          | グローバル教育支援機構／教授 |
| 宮内 久光 (Hisamitsu Miyauchi) | 人文地理学          | 国際地域創造学部／教授    |
| 宮里 厚子 (Atsuko Miyazato)    | ヨーロッパ文化 フランス文学 | 国際地域創造学部／准教授   |
| 本村 真 (Makoto Motomura)     | 地域福祉学          | 人文社会学部／教授      |
| 矢野 恵美 (Emi Yano)           | 刑法             | 大学院法務研究科／教授    |
| 山里 絹子 (Kinuko Yamazato)    | アメリカ研究         | 国際地域創造学部／准教授   |

## (2) 客員研究員

| 氏名                            | 所属（申請時）                            | 職名（申請時）         | 受入教員   | 期間                        |
|-------------------------------|------------------------------------|-----------------|--------|---------------------------|
| 我部 政明<br>(Masaaki Gabe)       | 琉球大学                               | 名誉教授            | 藤田陽子   | 2024/4/1-<br>2025/3/31    |
| 狩俣 繁久<br>(Shigehisa Karimata) | 琉球大学                               | 名誉教授            | 當山 奈那  | 2024/4/1-<br>2025/3/31    |
| 佐藤 崇範<br>(Takanori Satoh)     | 国立民族学博物館                           | 事務補佐員           | 波多野 想  | 2024/4/1-<br>2025/3/31    |
| 知花 愛美<br>(Megumi Chibana)     | 神奈川大学                              | 助教              | 宜野座 綾乃 | 2024/4/1-<br>2025/3/31    |
| 波田野 悠夏<br>(Yuka Hatano)       | 東北大学<br>学際科学フロンティア研究所              | 助教              | 山極 海嗣  | 2024/4/1-<br>2025/3/31    |
| 田村 光平<br>(Kohei Tamura)       | 東北大学<br>東北アジア研究センター                | 准教授             | 山極 海嗣  | 2024/4/1-<br>2025/3/31    |
| Aaron Sherman Hopes           | Stanford University                | Ph.D. Candidate | 波多野 想  | 2024/4/1-<br>2025/3/31    |
| Leah Michelle Wasil           | University of Hawai‘i at Mānoa     | Ph.D. Candidate | 藤田 陽子  | 2024/4/1-<br>2024/11/15   |
| Nicolas Lucic                 | University of La Reunion,<br>CEMOI | Ph.D. Student   | 波多野 想  | 2024/7/11-<br>2024/8/6    |
| Firouz Gaini                  | University of the Faroe Islands    | Professor       | 波多野 想  | 2024/11/25-<br>2024/11/28 |
| Francesc Fusté Forné          | University of Girona               | Lecturer        | 宜野座 綾乃 | 2024/11/16-<br>2025/1/16  |



## II . 研究事業等

---

1. RIIS 主体の研究プロジェクト・事業
2. 外来研究者との共同研究
3. 公募型共同研究・個人型共同利用
4. 出版物
5. 研究成果の発信と普及
6. 部局間交流協定の締結

# 1. RIIS 主体の研究プロジェクト・事業

## (1) 2024 年度テーマ設定型共同研究

「宮古島と石垣島をつなぐ生活圏の形成  
ー戦後開拓移民とパイン工場への出稼ぎに注目してー」

### 事業概要

島嶼地域科学研究所は 2022 年度から毎年度に個別テーマに基づく共同研究を開始した。2024 年度は「宮古島と石垣島をつなぐ生活圏の形成 ー戦後開拓移民とパイン工場への出稼ぎに注目してー」をテーマとして設定し、鳥山淳と宮内久光（研究所併任教員）が研究に取り組んだ。その概要は以下の通りである。

- (1) 宮古島の狩俣出身者の体験を調査するために、石垣市と宮古島市でインタビュー調査を行った。石垣市では、平良市郷友会の活動を継続的に担ってきた狩俣出身者にインタビューを行い、郷友会活動の歴史や近年の活動状況などについて情報を得た。また同市の崎枝に戦後入植した狩俣出身者にインタビューを行い、入植当初からの生活の歩みについて詳しい証言を得た。宮古島市では、石垣島のパイン工場への出稼ぎを経験した狩俣出身者にインタビューを行い、当時の生活状況やパイン工場での体験に関する証言を得た。
- (2) 石垣市で関連資料の調査を行った。石垣市立図書館では同館が提供している『八重山毎日新聞』記事検索機能を利用して、1960 年代～ 70 年代のパイン工場に関する記事を調査し、工場の稼働期における労働と地域社会との関係性を把握できる記事を多数収集した。それらの記事から、工場稼働期における労働者募集が地域社会と一体となっていた状況や、学生アルバイトの募集に伴って発生していた問題などを把握することができた。石垣市教育部市史編集係では、戦後開拓とパイン工場に関連する資料の所在状況について情報を収集し、関係者へのインタビュー調査の可能性について助言を得た。
- (3) 上記の調査を通して、石垣島と宮古島を同時に視野に入れて戦後の「生活圏」を記述することの必要性・有効性を再確認した。特にパイン工場に関する記録や体験を通して、女性の季節労働によって両島をつなぐ「生活圏」が継続的に機能していた状況を確認できたことは、研究を発展させるうえで重要な成果である。パイン工場における労働に関しては、「台湾女工」に注目した研究が複数存在する一方で、地元女性の労働や宮古島からの季節労働を調査対象とした研究はほぼ見当たらないため、本格的な調査・研究を実施する学術的な意義は十分に認められる。また工場労働の体験者に聞き取り調査を行うことも十分に可能であるため、継続的な調査の方法を検討・調整して、今後の調査研究を展開するための準備を進めている。

## プロジェクトメンバー

鳥山 淳（島嶼地域科学研究所 / 教授）

宮内 久光（国際地域創造学部 / 教授）

## 事業予算額

2024 年度     250 千円

## 2. 外来研究者との共同研究

「先史南琉球をモデルとした『モザイク状境界領域』の形成に関する研究」

(2024-2028 年度)」

山極 海嗣（琉球大学島嶼地域科学研究所）  
波田野 悠夏（東北大学学際科学フロンティア研究所・RIIS 客員研究員）  
田村 光平（東北大学東北アジア研究センター・RIIS 客員研究員）

### 事業概要

先史時代の東シナ海上では「縄文文化集団の琉球列島への南下」と「台湾からの新石器文化集団の拡散」という二つの人類集団・文化の大きな動きが発生しており（図 1）、南琉球はこうした二つの動きの狭間に位置しながらも、物質文化と遺伝的特徴では異なる起源と境界線が混在し重なり合う「モザイク状境界領域」にあった。本研究課題は、この特殊な境界領域に対して、物質文化を基にした文化的側面で生じた周辺地域との間での細かい関係性を明らかにし、複雑な境界領域を成り立たせている構造・背景・要因の解明を試みる。

本研究課題は、2023 年度の RIIS 客員研究員である波田野悠夏、田村光平との共同研究「分野横断型の考古学的資料解析による日本列島南西端の島嶼文化起源の解明（2023 年度笹川科学研究助成・代表：波田野）」、および「多領域解析法による日本列島南西端の島嶼文化起源の解明（東北大学領域創成研究プログラム・代表：波田野）」の成果に基づき構築された。本課題では東北大学の両名に加え、さらに熊本大学、早稲田大学、沖縄県立芸術大学の研究者を加え、より大規模な領域横断型研究チームによって課題の遂行を目指す。

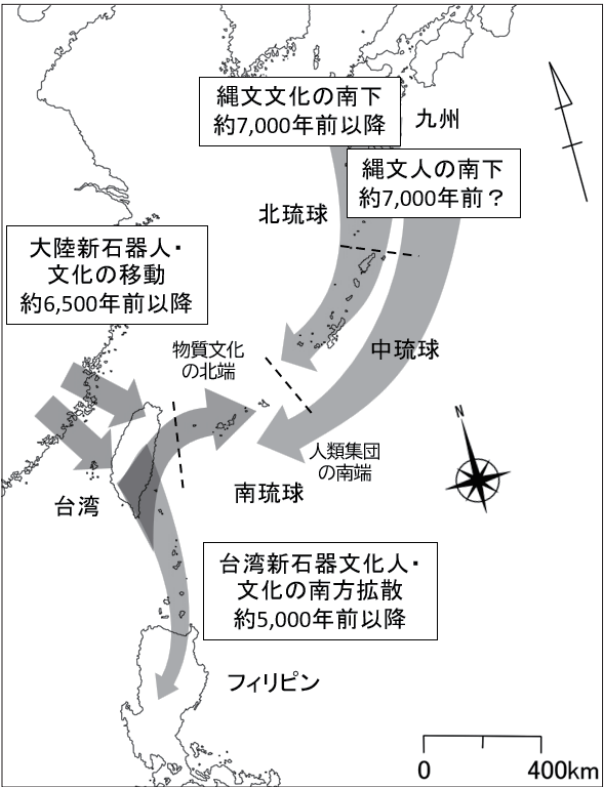


図 1 南琉球を取り巻く大規模な人類・文化集団の動き

### プロジェクトメンバー

山極 海嗣（琉球大学島嶼地域科学研究所・研究代表）  
波田野 悠夏（東北大学学際科学フロンティア研究所・琉球大学島嶼地域科学研究所客員研究員）  
田村 光平（東北大学東北アジア研究センター・琉球大学島嶼地域科学研究所客員研究員）  
青山 洋昭（琉球大学研究基盤統括センター）  
山野 ケン陽次郎（熊本大学埋蔵文化財調査センター）  
深山 絵実梨（早稲田大学高等研究所）

## 事業予算額

2024 年度：4,810 千円（直接経費：3,700 千円、間接経費：1,110 千円）

2025 年度：5,460 千円（直接経費：4,200 千円、間接経費：1,260 千円）

2026 年度：5,070 千円（直接経費：3,900 千円、間接経費：1,170 千円）

2027 年度：3,120 千円（直接経費：2,400 千円、間接経費：720 千円）

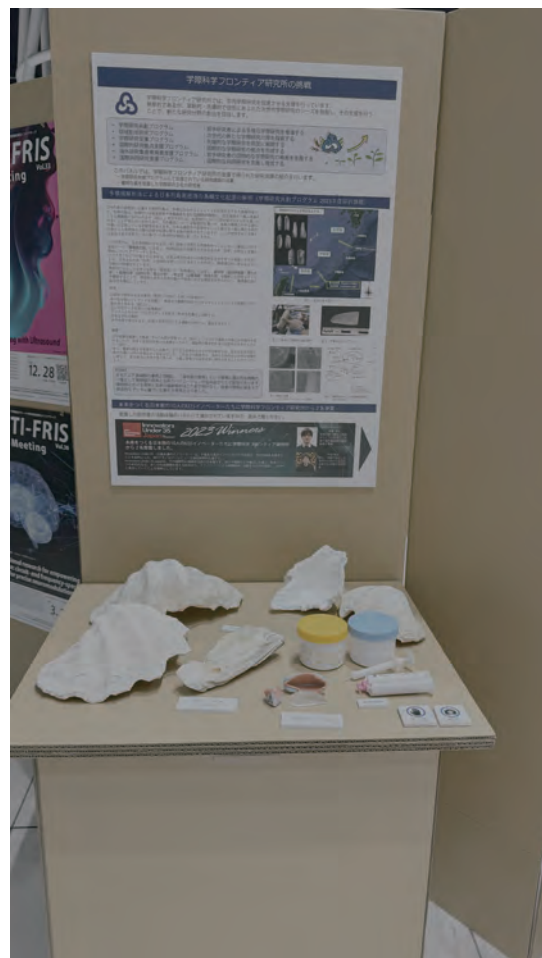
## 2024 年度の活動内容



図 2 企画展示「学際研究で蘇る東北の豪族達」、併設展示「知の交差点：異分野との出会いから続く未来への道」（せんだいメディアテーク 1F オープンスクエア、2024 年 5 月 25-29 開催）



図 3 併設展示「知の交差点：異分野との出会いから続く未来への道」での展示ブース



プロジェクト開始となる 2024 年度は、まず前年度の研究課題（「分野横断型の考古学的資料解析による日本列島南西端の島嶼文化起源の解明、および「多領域解析法による日本列島南西端の島嶼文化起源の解明」による成果、そして本研究課題の展望について展示出展と講演会での講演を実施した。展示は宮城県仙台市で行われた東北大学学際科学フロンティア研究所主催で実施された企画展示「学際研究で蘇る東北の豪族達」の併設展示として行われた、「知の交差点：異分野との出会いから続く未来への道」(2024 年 5 月 25-29 日開催)である(図 2)。プロジェクトチームからは共同研究の背景や、手法・成果に関する展示を出品した(図 3)



図 4 展示チラシと学術講演「形態と文化と道具で探る古代の人々」の様子

また、同企画展では学術講演「形態と文化と道具で探る古代の人々」が実施され、本プロジェクトメンバーである波田野悠夏と山極海嗣が講演した(図 4)。さらに、プロジェクトメンバーの田村光平は琉球大学島嶼地域科学研究所が主催するレクチャーシリーズ 2024 でも関連講演を実施した(図 5)。2024 年度はこのようなイベントを交えつつ、調査研究を順調に開始している。既にいくつかの研究成果も纏まりつつあり、2025 年度にはよりインパクトの高いプロジェクト成果を公開できるよう活動を継続しているところである。



図 5 レクチャーシリーズ 2024 で講演する様子  
(琉球大学附属図書館ラーニングコモンズ、2024 年 10 月 18 日)



### 3. 公募型共同研究・個人型共同利用

島嶼地域科学研究所では、島嶼地域の研究に取り組む研究者とそのアイデアを広く募り、多様な島嶼地域研究を展開するための共同利用・共同研究を推進している。2016 年度に公募型共同研究（複数名による共同研究、国内および海外）を開始し、加えて 2018 度より個人型共同利用（個人による調査研究）を進めてきた。これらの取組は島嶼研究の国内外における強化と、同研究の世界的拠点としての役割を本研究所が担うことを目指すものである。2020 年度は世界的な新型コロナウイルス感染拡大状況を鑑み募集を見合わせ たが、それまでに公募型共同研究総計 26 件（継続を含む）、個人型共同利用総計 5 件を採択してきた。

2021 年度においては、新型コロナウイルス感染状況は予断を許すものではなかったものの、学外研究者に本研究所を拠点に研究活動に従事していただく個人型共同利用（個人による調査研究）の実施は可能と判断し、その募集のみを再開し、3 件の研究課題を採択した。さらに 2022 年度に 1 件、2023 年度に 1 件の研究課題を採択し、継続的な事業実施を進めてきた。公募型共同研究に関しては、2022 年度に再開の目処がたったことから、1 件の研究課題を採択した。2023 年度も同様に、1 件の課題を採択した。

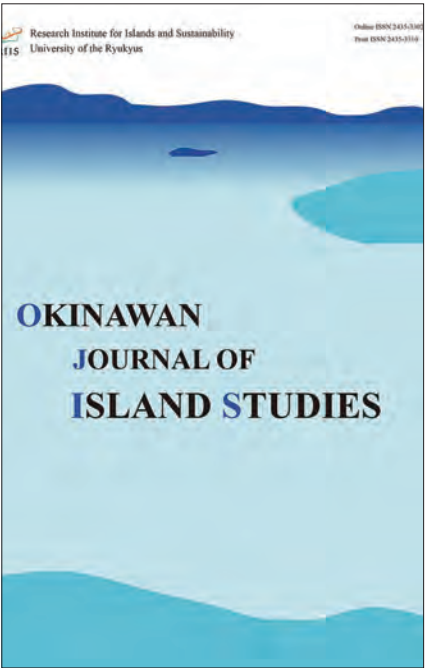
2024 年度については、研究所の予算状況を鑑みて募集を見送った。2025 年度以降については、募集の再開を検討中である。



## 4. 出版物

定期刊行物（ジャーナル・学術雑誌）

『*Okinawan Journal of Island Studies (OJIS)*, Vol.6』



本誌は、人文・社会科学を中心とした国内外の島嶼や島嶼性に着目した英語による学術論文と書評を募集している。専門分野ごとに国内外の査読者による厳密な査読の後、優れた論文を掲載することで、島嶼地域科学の学術分野への国際的な寄与を目指している。査読結果に基づいて掲載される Research Paper の他、Forum “Miduri” ではインタビュー、研究ノート、データや資料、詩や散文等の作品も掲載する。また、島嶼関係の文献を紹介する Book Review も募集している。

Vol.5 以降は、アクセスの利便性を向上させるべくオンライン・ジャーナルとして発行し、より多くの読者との議論の場を形成することを目指している。

2025 年 3 月に発行した Volume 6 の目次は下記のとおりである。本号の Special Topic は、ゲストエディターとして梅村哲夫名古屋大学大学院教授，大城淳琉球大学准教授をお招きし，テーマを “Economy, Industry and Business in Asia-Pacific Islands” と設定した。

### **OJIS Volume 6**

#### **General Topic**

#### **Editors’ Note**

**Yoko Fujita, Kaoruko Miyakuni, Kaishi Yamagiwa, Timothy Kelly**

#### **Research Paper**

**Keeping Connected with Home: Island Beach Community Languages, Conversational Narratives, and Talking about People in the Pitcairn Island Language**

**Joshua Nash**

#### **Book Review**

**Gill Perry. 2024. Islands and Contemporary Art**

**Jonathan Pugh**

**Special Topic: Economy, Industry and Business in Asia-Pacific Islands**

**Editors' Note**

**Tetsuo Umemura, Jun Oshiro**

**Research Paper**

**How Does the Process of Planetary Mine Incorporate a Remote Island ?: A Case Study of Naoshima Island, Japan**

**Reo Mawatari**

**Assessing Development Policies for Inhabited Remote Islands on Borders**

**Jun Oshiro**

**Forum Essay**

**Indonesian Economy: Current Situation and Future Challenges**

**Al Muizzuddin Fazaalloh**

**From Nagoya to Northern Mindanao: Reflections on the Philippine Economy through Japan's Development Lens**

**Ma. Estrella Luz Penaloza**

**Book Review**

**Bertrand Annie and Jordan Hamilton. 2024. Effective Public-Private Community Partnership (PPCP) in Tourism for Sustainable Development in Small Island Developing States (SIDS)**

**Tetsuo Umemura**

学術雑誌『島嶼地域科学』 第5号



『島嶼地域科学』は島嶼地域科学研究所が発行する査読付きのオープンアクセスの学術雑誌である(J-stageにて公開)。本誌では島嶼に関する様々な研究についての論文や研究ノート、資料紹介といった原稿を幅広く募集し、1年に1回刊行している(掲載言語は日本語)。投稿募集の案内、および投稿規定などについては島嶼地域科学研究所のホームページに掲載している(<http://riis.skr.u-ryukyu.ac.jp/publication/jrsi>)。

2024年度は、2024年6月に第5号を発行した。目次は以下の通りである。本号についてはWeb上で閲覧が可能である(<https://riis.skr.u-ryukyu.ac.jp/publication/jrsi/jrsi05/>)。

『島嶼地域科学』 第5号

研究論文

儀保 ルシーラ悦子・金城 尚美

「ブラジルにおける「ウチナーグチ・サークル」に関する一考察」

研究ノート

落合 いずみ

「アタヤル語群の「幼い動物」から再考するオーストロネシア祖語の「新しい」」

福井 弘教

「島嶼地域における墓地行政の趨勢に関する試論—2000年以降の沖縄県・福岡市・堺市議会議事録の比較を通して—」

島袋 琉

「沖縄戦後史における国際都市形成構想の持つ意義—F.A. ハイエクの思想を手掛かりに—」

資料

石川 恵吉

「琉球文学資料 川平朝彬「別冊八重山島歌粒寄之続」について」



## 5. 研究成果の発信と普及

### (1) 研究資源データベース

島嶼地域科学研究所では 2018 年度より、島嶼地域科学を推進する過程で設定する重点課題を軸に、①学術情報・資料の収集・整理を行い研究資源化すること、②それらをデジタル化・データベース化し、ウェブ等で公開することで多様な研究者からのアクセスを容易にすること、③「研究資源」及びそこから新たに得られた知見を地域社会に還元すること、を目的としてウェブサイトで「研究資源データベース」の公開を始め、2024 年度も公開を継続している。「地域の知・宮古島市狩俣地区版」は、2020 ～ 2022 年度に実施した「対話型アーカイブズによる新たな「島嶼の知」の創出に基づく島嶼地域科学の体系化」プロジェクト（日本学術振興会『課題設定による先導的人文学・社会科学的研究推進事業』（領域開拓プログラム）において開発したもので、調査地において取得した研究データを、地域住民を含む広い範囲で公開し、地域課題の解決に資する研究資源データベースのあり方を模索しているものである。「沖縄関係外交資料コレクション」は本研究所が長年運営している研究資源データベースである。2024 年度には、琉球大学附属図書館リポジトリに DOI を付与して掲載する作業を行い、126 点の掲載を完了した。



## (2) 共通教育科目「島嶼地域科学入門」（後学期・水曜日1限）

島嶼地域科学研究所では各年度の後学期に共通教育科目の授業を提供している。本授業は複数の学問分野の専門家によるオムニバス講義で実施し、2024年度は本研究所が発刊した学術書籍『島嶼地域科学を拓く：問い直す環境・社会・歴史の実践』（ミネルヴァ書房）をテキストに指定した。授業内容は以下の通りである。

### 授業概要

琉球列島などの小規模の島々からなる島嶼地域は、大陸部の地域や大国の視点からは周縁や辺境の存在として位置づけられる傾向にある。一方で、島嶼にフォーカスした様々な研究によって、島嶼地域ならではの環境や人間文化の多様性、あるいはそれに基づく独自の社会的課題や将来性も明らかになってきている。近年の多様な視点や価値観の共存を必要とする社会において、島の社会もまた島嶼固有の特性の理解に基づく自律的かつ持続的な社会の展開が求められている。本授業ではこうした島嶼地域での社会の成り立ちや現状・課題を理解するための基礎的な知識を様々な研究分野から習得し、「島嶼」の科学的な理解に基づいて島嶼社会の将来を考え・創造する力を獲得することを目的とする。

### 授業内容（各回の担当教員と授業テーマ）

第01回 鳥山 淳「ガイダンス」

「第1テーマ：島嶼の多様性とネットワーク」

第02回：鳥山 淳「第1テーマの概要説明&近現代の沖縄と太平洋島嶼」

第03回：池上 大祐「太平洋島嶼現代史という視点」

第04回：宜野座 綾乃「太平洋島嶼におけるジェンダー」

第05回：宜野座 綾乃「小グループでのディスカッション」

「第2テーマ：島嶼における様々なリスクとそのマネジメント」

第06回：藤田 陽子「第2テーマの概要説明&島嶼の環境と経済」

第07回：斉藤 美加「島嶼の感染症対策―行動変容に果たした、科学と互助―」

第08回：渡辺 信「マングローブと防災」

第09回：藤田 陽子「小グループでのディスカッション」

「第3テーマ：島嶼の歴史と文化を記録する」

第10回：鳥山 淳「第3テーマの概要説明&戦争体験と記録作成」

第11回：山極 海嗣「島嶼の歴史から発掘する海域ネットワーク」

第12回：波多野 想「島嶼の文化遺産」

第13回：山極 海嗣「小グループでのディスカッション」

「総括」

第14回：波多野 想「島嶼地域課題への科学的アプローチ」

第15回：鳥山 淳「小グループでのディスカッション」

(3) セミナー・シンポジウム等

RIIS レクチャーシリーズ 2024

島嶼地域研究や関連する分野に携わる外部講師を招聘し、多様な学術分野に関する講演を行った。

第1回

日時：2024年10月18日（金）16：30～18：00

講師：田村 光平 先生（島嶼地域科学研究所・客員研究員／東北大学東北アジア研究センター・准教授）

タイトル：「人類史研究のための公正な知識生産システムの構築に向けて」

概要：「疑わしい研究慣行」「再現可能性」「オープンサイエンス」「資料の帰属に関する倫理」…様々な動向が学術のあり方自体に変化を迫っている。特に近年は、国境や分野の壁を超えて制度として実装される傾向があり、自他ともに牧歌的であることを認めていた人類史の研究も無縁ではいられなくなっている。本発表では、まだ途上ではあるものの、文化データの数理解析、考古学遺物の三次元計測、デジタルアーカイブなどを関連させた、人類史研究の知的生産のあり方に関する講演者の試みについてご紹介いただいた。

第2回

日時：2024年10月21日（月）10：20～11：50

講師：Leah Wasil 氏（島嶼地域科学研究所・客員研究員／ハワイ大学博士課程）

タイトル：“Shuri Castle: A Monumental Vision of Third Space in Okinawa”

概要：本講演では2019年に全焼した首里城再建事業に焦点を当てる。沖縄の歴史・遺産・アイデンティティの存続と再生を象徴する記念碑的アイコンとしての首里城の復元には、考古学者・文化人類学者・保存修復の専門家らが関わっている。首里城はアイデンティティと目的の交渉の深部に潜む問題を明らかにする第三の空間を提供し、考古学・ナショナリズム・アイデンティティ・観光をめぐる政治的・経済的・社会的権力関係を模索する中でこれらの交渉が展開されている。

また、首里城は様々な歴史、アイデンティティ、声を議論の最前線に押し出す境界領域であるとともに、物質と非物質の境界が崩壊する記念碑的ビジョンの実例である。ゆえにその再建は、コミュニティ参画・国際協力・学際的アプローチが協働し、モニュメントが遺産形成において如何に能動的役割を担うかを再定義する研究対象となる。

第3回

日時：2024年11月1日（火）13：00～14：30

講師：原 智弘 先生（帝京大学外国語学部外国語学科・教授）

タイトル：「1970年代韓国人サトウキビ刈り労働者の記録と記憶—南北大東島を中心に—」

概要：1970年代の南北大東島には、サトウキビ刈りや製糖に従事するため、多くの韓国人季節労働者が渡っていた。その実態に関してはまだわからないことが多く、特に韓国においては忘れられた事実と言っても過言ではない状況だという。東アジア国際関係の変動に強く規定されたこの問題につい

て、日韓に残された数少ない記録と、島の人々の記憶を結びながら研究活動を進めている原智弘先生をお招きして、ご講演いただいた。

#### 第4回

日時:2024年12月13日(金) 13:00～14:30

講師:佐藤 崇範 氏(島嶼地域科学研究所・客員研究員/能登里海教育研究所・研究員)

タイトル:「自然史系博物館における研究資料の現状と利活用について」

概要:自然科学の研究が研究活動の過程で作成・収受した「研究資料」は、多様な研究分野における貴重な学術資源として価値が認められているものの、その多くは研究者の自宅や元所属機関等に残されたまま、有効に利活用されることなく、散逸・消失の危機に瀕している。本発表では、国内の自然史系博物館等に対して実施した「研究資料」に関するアンケート調査の結果から、その現状を明らかにするとともに、特にフィールドワークの記録は調査地域の地域資源としても有効に活用できることを実例とともにご紹介いただいた。

#### 第5回

日時:2024年12月23日(月) 13:00～14:30

講師:Aaron Hopes 氏(琉球大学島嶼地域科学研究所・客員研究員/スタンフォード大学人類学部・博士課程)

タイトル:「島嶼学の視点から動物論的転回を考える」

概要:この約20年の間、二つの学際分野が、様々な学会誌、研究所、学会の創立を通して、新たな先進分野として急成長した。島嶼学に係る論壇はすでに成長されてきた人文社会学的なテーマのいくつか、例えば脱植民地主義、資本主義と自由主義、黒人研究、フェミニズム学、環境人文学等と関わりながら、地球上の諸島嶼の視線から新たな学際的検討をもたらしてきた。この講演では、諸分野に跨る動物論的転回から近年に広がって来た理論を考え、鳥獣そして動植物の社会性が島嶼学にどう貢献できるかを議論した。

#### 第6回

日時:2025年3月11日(火) 15:00～16:30

講師:梅村 哲夫 先生(名古屋大学大学院国際開発研究科 国際開発協力専攻・教授)

タイトル:「太平洋島嶼国における戦後の国際貿易から一近年における観光開発と経済発展に関する考察」

概要:太平洋には多くの島嶼国があるが、ミクロネシア、メラネシア、ポリネシアの3つの地域に分けられる。国を構成する島の状況や人種の特徴を由来としているが、戦前戦後の植民地統治や援助の歴史から、大雑把にはミクロネシアはアメリカ、メラネシアはオーストラリア・ニュージーランド、ポリネシアはフランスの影響を受けており、その視点も踏まえ、国際貿易や国際観光の観点から考察した。

琉球大学附属図書館学外企画展への協力

波多野 想（島嶼地域科学研究所）  
山極 海嗣（島嶼地域科学研究所）

琉球大学附属図書館は、本学が所蔵する資料の公開や地域貢献の一環として毎年秋に学外企画展を開催している。2024年度は、10月5日から10月27日の期間で、うるま市教育委員会との共催による企画展「琉大資料がつなぐあやはし：うるまの今昔」をうるま市立海の文化資料館にて開催した（<https://www.u-ryukyu.ac.jp/news/62273/>）。

同企画展において、本研究所は、セメント瓦の展示および「セメント瓦ワークショップ」（2024年10月12日開催）を行った。

令和6年度琉球大学附属図書館企画展

# 琉大資料がつなぐあやはし うるまの今昔

2024 10/5 土 - 10/27 日

会場 | うるま市立海の文化資料館  
開館時間 | 9:00-17:00 (入館は16:30まで)  
休館日 | 月曜日 (月曜が祝日の場合は翌日が休館)

入場 無料

関連企画

① セメント瓦ワークショップ

日時 | 10/12 土 14:00-16:00  
講師 | 波多野 想 (琉球大学島嶼地域科学研究所教授)  
山極 海嗣 (同 講師)  
定員 | 30名 (申込不要、当日先着順)

② 2人組イベント (伝統タコ釣り漁具) の  
キーホルダーを作ってみよう!

日時 | 10/26 土 14:00-15:30  
講師 | 平良 渉 (琉球大学博物館助教)  
定員 | 15組・30名 (右下QRコードから事前申込みが必要)  
\*小学生以上対象 (小学生は保護者同伴)

主催/琉球大学附属図書館 共催/うるま市教育委員会  
協力/琉球大学博物館 (現慶館)、琉球大学島嶼地域科学研究所、  
琉球大学考古学研究所  
問合せ/琉球大学附属図書館資料サービス課保存公開係  
TEL: 098-895-8697 E-mail: tsokinawa@acs.u-ryukyu.ac.jp

特設サイト  
フェスタ 琉球大学2024

## 沖縄のセメント瓦／日本のセメント瓦

皆さんも、灰色の瓦を一度は目にしたことがあるでしょう。

それらが、セメント瓦です。

これは、セメントと砂を混ぜあわせ成型した瓦で、近代沖縄ではむしろ赤瓦よりも一般家屋に普及していた瓦でした。

現代では赤瓦ほど注目されていませんが、近年その出自や特徴に研究対象としての関心が集まりつつあります。

例えば、沖縄のセメント瓦は台湾から渡ってきたのではないかともいわれており、また工場ごとに創意をこらしたデザインがみられるため、沖縄県内の地域性が花開きました。ここでは、そのようなセメント瓦の魅力の一端を紹介します。



① 1910年代初頭に登場？

日本におけるセメント瓦の発祥については、これまで研究によると、1912年に既に製造されていたとする説と、第一次世界大戦中に日本軍が青島を占領した際にセメント製の屋根材を発見し、軍関係者が日本でも製造を開始したという説がある。

その後、関東大震災時に粘土瓦に比してセメント瓦の被害が少なかったため、復興時にセメント瓦の需要が増加した。

② セメント瓦、台湾にわたる？

日本の統治下にあった同時期の台湾でも、特に台湾総督府やその他の官公庁によって建てられた官舎などで、セメント瓦が用いられた。

③ そして、台湾から沖縄にわたる？

そして、台湾で進歩したセメント瓦が沖縄にわたってきたとされている。

台湾屏東県でみかけたセメント瓦家屋  
1938年に日本海軍航空隊の官舎として建てられたもの

## 沖縄のセメント瓦は台湾からわたってきた？

名護出身の岸本久幸氏が台湾総督府刑務所管轄係に勤務しながらセメント瓦の技術を学び、1935年に名護に帰郷した際に瓦工場を創設したことが、沖縄におけるセメント瓦の始まりとされています。

岸本氏が名護で初めて葺いた瓦は、渦巻き状の装飾をもっていました。その装飾は日本では見られないものです。名護の建物はずでに取り壊されています。

ところが、同様に装飾は、日本統治時代の台湾で多用されていたようで、現在でもみることができます。

さらになんと、台湾ではいまでもその装飾のセメント瓦が生産されています（展示物をみてください）。



台湾中部の虎尾鎮に残る渦巻き状  
1940年に建設された住宅。日本で見ることがない渦巻き状の装飾がみられる。これが岸本氏が名護で作った瓦の原型？（現在は修復され、「虎尾厝沙龍」という名で公開）（2023年9月撮影）

台湾中部の嘉義市大林にて  
いまでも作られているセメント瓦  
渦巻き状の装飾が主流？（2023年9月撮影）

台湾南部の屏東県でみかけたセメント瓦3選  
日本海軍航空隊の官舎として1938年に建てられた建物に置かれている。これらは渦巻き状の装飾ではない。むしろ沖縄のセメント瓦との類似性がある。ということは、台湾のセメント瓦は（も）時代や地域によって異なる装飾をもつ？（2024年9月撮影）

台湾のセメント瓦も、沖縄のセメント瓦同様に、いまでもあまり研究がされてきませんでした。しかし、沖縄のセメント瓦について詳しく知るためには、台湾のセメント瓦についても詳しく知る必要があります。これからの研究成果に期待してください。

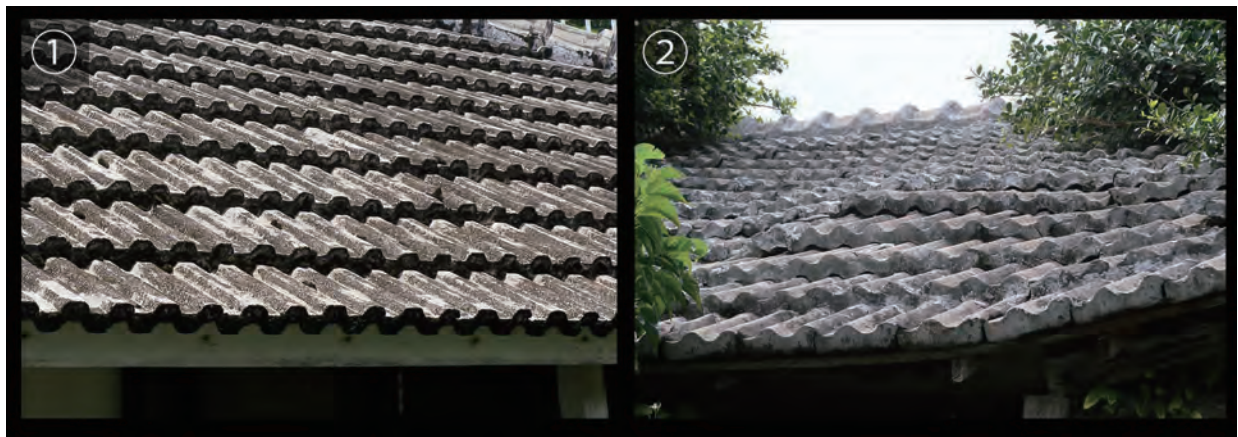
# 沖縄の独自性が花開いたセメント瓦



沖縄に伝わったセメント瓦文化は、様々な個性を手に入れました。一見すると同じように見えるセメント瓦にも、様々な形やデザインがあり、屋根を彩っています。

なぜ色々な種類が現れたのかの理由はよく分かっていませんが、その背景には新しい瓦文化であるため、様々な職人が新規参入することで個性化・多様化したのではないかと考えられています。

典型的なセメント瓦屋根。灰色や白色になることが多く、赤瓦とは違う美しさがある。



セメント瓦屋根の大部分を占める平たい瓦（平瓦）。比較的良く似た形をしているが、よく見ると①は角ばっているのに対して、②は波打つ形をしているなどデザインが異なる。このように形が違えばお互いの瓦を交換して使うのは難しくなる気がするが・・・？



セメント瓦屋根の棟を彩る模様やマークの付いた瓦（花瓦）。セメント瓦屋根において最も意匠をこらす部分。文様などはもちろん、漢字、カタカナ、アルファベットまでであるのが面白い。どうやらデザインは地域ごとに異なる傾向があるようで、ご当地花瓦と言えるものも見えてきている。

6. 部局間交流協定の締結

本研究所は、共同研究の促進を狙い、国内外の研究組織との部局間交流協定の締結を進めている。  
2024 年度における協定締結研究機関は、下記の 3 機関である。

| 国内外    | 協定締結研究機関                    | 期間        |
|--------|-----------------------------|-----------|
| 国内     | 大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国立国語研究所 | ～ 2028 年度 |
| 国外（台湾） | 国立虎尾科技大学 文理学部               | ～ 2028 年度 |
| 国外（台湾） | 国立台北科技大学 設計学部               | ～ 2028 年度 |





### Ⅲ . 教員の研究・教育活動

---

1. 研究業績（専任・併任教員）
2. 教育活動（専任教員）
3. 社会連携

1. 研究業績（専任・併任教員）

＊日英併記、50 音順

【原著論文】

1. 池上大祐（2025）「太平洋軍事環境史の可能性―「アメリカ帝国の群島―領土」という概念に注目して―」（『新しい歴史学のために』第 305 号、3～21 頁。（依頼論文）
2. 池上大祐（2025）「グアムにおけるアメリカ海軍軍政統治の再建と米軍基地の拡張―米海兵隊史料『戦時日誌 War Diary』（1944～1946 年）の分析を中心に―」（『地理歴史人類学論集』第 14 号、19～40 頁。（査読なし）
3. 沖縄振興開発金融公庫 調査部 地域連携情報室（平良貴洋・宮平秀悟）・瀬口浩一 他（2024）「住宅確保に関する現状と課題」（『公庫レポート』（沖縄振興開発金融公庫）第 192 号、1-73 頁。（査読なし）
4. Hirono Sasaki, Dian Puspita Sari, Cut Warnaini, Fahrin Ramadan Andiwijaya, Rie Takeuchi, Hamsu Kadriyan, Fumiko Shibuya, Jun Kobayashi. 2024. Leadership of school principals for school health implementation among primary schools in Mataram, Indonesia: a qualitative study, *Tropical Medicine and Health* 52:5, <https://tropmedhealth.biomedcentral.com/articles/10.1186/s41182-023-00568-y>
5. Ernesto R. Gregorio, Rie Takeuchi, Paul Michael R. Hernandez, John Robert Medina, Shin-ya Kawamura, Mikaela B. Salanguit, Marian Danille C. Santillan, Kimberly Mae S. Ramos, Gideon John Tuliao, Lyndon Morales, Maylin Palatino, Fumiko Shibuya, Jun Kobayashi 2024. Knowledge, attitudes, and practices related to dengue among public school teachers in a Central Luzon Province in the Philippines: an analytic cross-sectional study, *Tropical Medicine and Health* 52, 25, <https://tropmedhealth.biomedcentral.com/articles/10.1186/s41182-024-00591-7>
6. Chieko Shirai, Daisuke Nonaka, Jun Kobayashi 2024. Evaluating the cross-cultural competence instrument for healthcare professionals (CCCHP) among nurses in Okinawa, Japan, *BMC Health Services Research* 24. 369, <https://bmchealthservres.biomedcentral.com/articles/10.1186/s12913-024-10814-6>
7. Fumiko Shibuya, Margaret Hattori-Uchima, Paul Dacanay, Florence Peter, Tarmau Terry Ngirmang, Rudelyn Dacanay, Rie Takeuchi, Calvin de los Reyes, Jun Kobayashi 2024. Multi-country case study on school health policy and its implementation in relation to COVID-19 control in Micronesia Small Islands Developing States, *Tropical Medicine and Health* 52, 27, <https://tropmedhealth.biomedcentral.com/articles/10.1186/s41182-024-00590-8>
8. Yasutaka Ojio, Takuma Shiozawa, Ernesto R. Gregorio Jr, Maria Cynthia Leynes, Paul Michael R. Hernandez, Crystal Amiel M. Estrada, Taruto Fuyama, Jun Kobayashi, Naoko Satake 2024. An international interdisciplinary approach to developing video educational materials promoting mental health literacy among adolescents in the Philippines, *Early Intervention in Psychiatry* 1-8, <http://doi.org/10.1111/eip.13545>
9. Crystal Amiel Estrada, Masahide Usami, Naoko Satake, Ernesto Gregorio Jr, Ma. Cynthia Leynes, Norieta Balderrama, Japhet Fernandez de Leon, Rhodora Andrea Concepcion, Cecile Timbalopez, Vanessa Kathleen Cainghug, Noa Tsujii, Ikuhiro Harada, Jiro Masuya, Hiroaki Kihara, Kazuhiro Kawahara, Yuta Yoshimura, Yuuki Hakoshima, Jun Kobayashi. 2024. 2020 and 2021 web-based training program on children's mental health during the COVID-19 pandemic, *GHM Open* 2024, <https://doi.org/10.35772/ghmo.2024.01008>
10. Mikaela B. Salanguit, Marian Danille C. Santillan, Ernesto R. Gregorio Jr., Crystal Amiel M. Estrada, Fumiko Shibuya, Akihiro Nishio, Jun Kobayashi. 2024. School health policies and their implementation during COVID-19 pandemic in the Philippines, *Tropical Medicine and Health* 52,28, <https://tropmedhealth.biomedcentral.com/articles/10.1186/s41182-024-00659-4>

10. 友川 幸・渋谷 文子・日達 真美・秋山 剛・山川 路代・小林 潤「国際学校保健ワークショップ報告「海外でのフィールド研究をはじめのための A-Z」」日本健康教育学会誌 2024 年 32 巻 4 号 p. 340-346. <http://doi.org/10.11260/kenkokyoiku.32.340>
11. Ginoza, A. 2025. "Archipelagic Memory, Indigeneity, and Transnational Belonging in Sho Tanaka's 'Homecoming.'"『移民研究』第 21 号：21-36 頁.
12. Tanno, S. (2024). Sabbatical experiences and beyond: Enrichment and integration in psychology research and education. Bulletin of Faculty of Education University of the Ryukyus, 105, 71-74. (査読なし)
13. 當山奈那 (2025)「うるま市浜比嘉島方言の動詞の文法的な形式」『シマジマのしまくとうば』6、pp.148-185。(査読なし)
14. 狩俣繁久, 大胡太郎, 當山奈那「古典日本語のすがた動詞のス形、シヌ形、シツ形ー『につぽんど 8』第 7 章の解説」『琉球アジア文化論集』11、pp.1-29。(査読なし)
15. 内藤重之・杉村泰彦・矢野泉 (2024)「卸売市場制度改革による青果物卸売業者への影響とその事業展開に関する地域的特徴」『琉球大学農学部学術報告』第 71 号、pp.14-19。(査読なし)
16. 内藤重之 (2024)「学校給食における地場産物の活用」『季刊栄養教諭』第 75 号、pp.12-19。(査読なし)
17. 廣瀬 孝・村山 海斗 (2025)「宜野座村松田鍾乳洞における浮遊土砂の流出」『地理歴史人類学論集』第 14 号、pp.171-180。(査読なし)
18. 宮内久光 (2024)「4 章 沖縄県宮古島における日本本土への季節労働移動」須山聡・宮内久光・助重雄久編『離島研究VII』、海青社、pp.69-87。(査読なし)
19. 宮内久光 (2024)「6 章 近代的な施設の立地から見た島嶼型植民地・南洋群島の地域形成」須山聡・宮内久光・助重雄久編『離島研究VII』、海青社、pp.103-120。(査読なし)
20. 宮内久光 (2025)「沖縄永良部島における農業経営部門の類型とその分布——2020 年農林業センサス調査票情報を活用して——」琉球大学国際地域創造学部地域文化科学プログラム紀要地理歴史人類学論集、第 14 号、pp.67-86。(査読なし)
21. 宮里厚子 (2025)「在フランス琉球・沖縄関連文化財の調査」『琉球大学欧米文化論集』第 69 号、pp.19-27。(査読なし)
22. 山極海嗣 (2024)「起源探索ではない視点から見た琉球列島人類史研究のポテンシャルー南琉球先史時代の特異な文化形成に関する新たな比較地域文化研究の可能性ー」『琉球大学考古学研究室開設 30 周年記念論文集』、1-12。(査読無し)

【書籍】

- 1. Ginoza, A., Toriyama, A.. 2024. "Beyond Glossy Tourist Images: Miyako Island, Okinawa, Japan, through the Stories of Machas, a Small Local Grocery Store." Archipelago Tourism Revisited. Routledge: 48-62.
- 2. Suzuki, Noriyuki, Seneduangdeth, Dexanourath, and Srisontisuk, Somsak (eds.) 2025. The Formation of Cooperative Network for Bottom-up Approach in Rural Community Development of Lao PDR. National University of Laos, Vientiane, Lao P.D.R., 156p.
- 3. 野入 直美 (編著) (2024)『引揚エリートと戦後沖縄の再編』不二出版
- 4. 宮内久光 (2025)『離島研究VII』須山聡・宮内久光・助重雄久編、海青社、p.211。(査読なし)

【その他（資料、解説、雑文、翻訳、新聞・雑誌への投稿等）】

- 1. 池上大祐「新刊紹介：古賀徳子・吉川由紀・川満彰編『続・沖縄戦を知る事典』吉川弘文館、2024 年」『琉球新報』（2024 年 8 月 10 日）
- 2. Ginoza, A. "Editorial Note." Okinawan Journal of Island Studies, Vol. 5.
- 3. Ginoza, A. Book review on Some Islands. Okinawan Journal of Island Studies. Volume 6.
- 4. 鳥山淳「書評 古波蔵契著『ポスト島ぐるみの沖縄戦後史』」『歴史評論』第 896 号、歴史科学協議会、pp103-108。(査読なし)
- 5. 淡野 将太 (2025). 小学校における宿題と成績の関連から指導と評価を考える 指導と評価, 843, 56-57.
- 6. 波多野想・山極海嗣・(2024)「沖縄セメント瓦の魅力」『琉大資料がつなぐあやはしうるまの今昔：令和 6 年度琉球大学附属図書館企画展』企画展パンフレット、6-7。
- 7. 山極海嗣・波田野悠夏・田村光平 (2024)「外来研究者との共同研究「分野横断型の考古学的資料解析による日本列島南西端の島嶼文化起源の解明」『島嶼地域科学研究所 2023 年度所報』、17-18。
- 8. 宮内久光 (2024)「書評：須山聡著、離島研究VII、海青社」琉球新報 2024 年 6 月 2 日付。(査読なし)
- 9. 宮内久光 (2024)「コメント：第一級の資料」沖縄タイムス 2024 年 4 月 20 日付。(査読なし)
- 10. 山極海嗣・波多野想 (2024)「沖縄セメント瓦の魅力」『琉大資料がつなぐあやはしうるまの今昔：令和 6 年度琉球大学附属図書館企画展』企画展パンフレット、6-7。



【招待講演】

1. 宜野座綾乃「軍事主義を問う女性たちの活動の経験」連続講座第3回シンポジウム『メディアは全ての人権のため隠された真実を暴け』主催：琉球弧の声を届ける会 . 2025 年 4 月 20 日
2. Ginoza, A. "Intergenerational Healing as a Feminist Decolonial Practice." Rise up for Okinawa Symposium. October 19, 2024. Organized by International Women's Network Against Militarism.
3. Ginoza, A. A panelist for "Interdisciplinary Approaches in Island Studies." SDGs Symposium. University of the Ryukyus. March 4, 2025.
4. Tanno, S. Does homework actually help with elementary school students' motivation in learning? 113 University of Taipei International academic visiting seminar. Taipei, Taiwan 2024 年 12 月 9 日
5. 野入直美「アメラジアンという視点で多文化共生を考える」国際行動学会第 20 回大会基調講演、沖縄大学、2024 年 9 月 28 日
6. 野入直美「女性引揚者を可視化する——沖縄の台湾引揚者を中心に」大阪大学大学院人文学研究科外国語専攻台湾研究講座主催国際シンポジウム「日台のはざまの引揚者たち」、大阪大学中之島センター、2024 年 10 月 6 日
7. 波多野想「亞州糖業文化島鏈之文化保存與合作」臺灣糖業文化路徑聯盟交流大會、台湾・台南、2024 年 12 月 28 日
8. 波多野想「景観概論」沖縄県令和 6 年度沖縄らしい風景づくり人材育成事業景観行政コーディネーター研修、沖縄・那覇、2024 年 9 月 12 日
9. 波多野想「景観を文化と人から考える」那覇市都市計画課景観研修、沖縄・那覇、2025 年 1 月 13 日
10. 山極海嗣（2024）「形態と文化と道具で探る古き南の島の人々ー南琉球の学際研究からみえることー」形態と文化と道具で探る古代の人々（企画展示「学際研究で蘇る東北の豪族達」・併設展示「知の交差点：異分野との出会いから続く未来への道」関連イベント）、宮城・仙台、2024 年 5 月 25 日

## 【学会発表】

1. 池上大祐「アメリカ太平洋島嶼現代史の現状と課題—グアムを中心として—」2024 年度日本国際政治学会札幌大会部会 2「アメリカ政治・外交への接近法」、札幌国際会議場、2024 年 11 月 15 日
2. 越智正樹「京都府宇治田原町における住民集団間リンケージによる観光まちづくりに関する事例報告」観光学術学会第 13 回大会、阪南大学・大阪、2024 年 7 月 7 日。
3. Ernesto R. Gregorio, Rie Takeuchi, Paul Michael R. Hernandez, John Robert Medina, Shin-ya Kawamura, Mikaela B. Salangit, Marian Danille C. Santillan, Kimberly Mae S. Ramos, Gideon John Tuliao, Lyndon Morales, Maylin Palatino, Fumiko Shibuya, Jun Kobayashi. Knowledge, attitudes, and practices related to dengue among public school teachers in a Central Luzon Province in the Philippines: an analytic cross-sectional study, 日本国際保健医療学会第 38 回東日本地方会, 札幌 2024 年 7 月 6 日。
4. 小林潤「これから海外でフィールドワークを始める人へ」(ビデオ発表) ワークショップ「海外でのフィールド研究のための A-Zー海外での研究を始めたいあなたの疑問を解決します！」第 32 回日本健康教育学会、長野、2024 年 7 月 6 日～7 日
5. Fumiko Shibuya, Jun Kobayashi. 'Promoting factors of Scholl Health Implementation related to PPR of COVID-19 among Micronesia Small Island States', Symposium: Build forward better of Health System among Pacific Islands Countries., グローバルヘルス合同大会、糸満、2024 年 11 月 16～17 日
6. Jun Kobayash. Global Concept and Challenges of Child Mental Health, Workshop:Current situation, challenges and opportunities of child mental health in Philippine and Japan, グローバルヘルス合同大会、糸満、2024 年 11 月 16～17 日
7. 小林潤「History and Future of Global Health with Decolonialism」Workshop:10 年後も私たちはここにいるのか? ～グローバルヘルスの未来を担う世代からの提言～、グローバルヘルス合同大会、糸満、2024 年 11 月 16～17 日
8. Shin'ya Kawamura, John Robert, Rie Takeuchi, Rolando V. Cruz, Johnedel Mendoza, Paul Michael R. Hernandez, Fernando B. Garcia, Jr., Ernesto R. Gregorio, Jr., Jun Kobayashi. Spatial Analysis of Reported Dengue in Quezon City, Philippines Before and During the COVID-19 Pandemic and Exploration of its Environmental and Demographic Determinants, グローバルヘルス合同大会、糸満、2024 年 11 月 16～17 日
9. Mitsuaki Matsui, Azusa Iwamoto, Kenzo Takahashi, Masahiro Hashizume, Jun Kobayashi. Changes in the numbers of deaths among non-Japanese nationality in Japan amid the COVID-19 pandemic, グローバルヘルス合同大会、糸満、2024 年 11 月 16～17 日
10. 鈴木和音・小林潤「沖縄県において小規模離島で形成される、もしくは小規模離島を含む市町村の母子保健サービスに関する政策研究」(ポスター) グローバルヘルス合同大会、糸満、2024 年 11 月 16～17 日
11. Noudéhouénou Credo Adelphe Ahissou, Manami Uehara, Inthanomchanh Vongphoumy, Tiengkham Pongvongsa, Khampheng Phongluxa, Jun Kobayashi. Association between Women's Trust in Village Health Volunteers and their appropriate timing of antenatal and postnatal visits in rural areas of Lao People's Democratic Republic (Lao PDR) (ポスター), グローバルヘルス合同大会、糸満、2024 年 11 月 16～17 日
12. Manami Uehara, Credo Adelphe Ahissou, Inthanomchan Vongphoumy, Jun Kobayashi. The Potential Contributions of Male-Female Village Health Volunteers Working as a Pair on Promoting Maternal Health Care Access Among Ethnic Women Living in Remote Areas in Southern Lao PDR: a Case Study (ポスター), グローバルヘルス合同大会、糸満、2024 年 11 月 16～17 日

13. Jun Kobayashi, Nanae Aritaka, Miya Sawabe, Ryoko Toyoma, Tomoko Kamiya, Aya Tabata, Yuka Maekawa, Yoko Fuchigami, Masumi Tanaka, Hiromi Nishio, Chika Sato, Koichi Ikemura, Katsuhiko Fukuda, Keisuke Kumagai, Thant Zin Oo. Lesson learns on the humanitarian assistance from the border to Myanmar during conflict. (ポスター) , グローバルヘルス合同大会、糸満、2024 年 11 月 16 ～ 17 日

14. Naoko Nakama, Yuko Fukuhara, Katsunari Tsuchiya, Yuko Toyama, Tomoko Oowan, Sachi Fukushima, Hiroshi Sekiguchi, Carmina Guerrero, Tatsuya Kaneko, Takanori Sasaki, Yasushi Sawazaki, Toru Sadamori, Daisuke Kosugi, Fumiko Shibuya, Yumiko Endo, Itaru Hirai, Daisuke Nonaka, Kazumasa Naemura, Tetsuji Iida, Yujiro Yabe, Rie Takeuchi, Seiki Tateno, Shigeki Taniho, Jun Kobayashi. Experience and Impact of Knowledge Co-Creation Programs (health sector) at JICA Okinawa Center (ポスター) , グローバルヘルス合同大会、糸満、2024 年 11 月 16 ～ 17 日

15. Hirono Sasaki, Fuyu Miyake, Mototaka Inaba, Jun Kobayashi. eport on Teachers’ Perceptions and Practices on School Aged Obesity in the Republic of Palau; Development of extra-curricular activities on lifestyle-related disease prevention (ポスター) , グローバルヘルス合同大会、糸満、2024 年 11 月 16 ～ 17 日

16. Graham Kalosil Patas, Ahissou Cred Adelphe, Jun Kobayashi. Factors affecting the successful implementation of the Vanuatu guideline for health promoting schools and its diet related NCD reduction measures in Shefa Province, Vanuatu (ポスター) , グローバルヘルス合同大会、糸満、2024 年 11 月 16 ～ 17 日

17. Jun Kobayashi. Workshop: Health Equity: Addressing migrant health challenges: for better access to health services in Asian countries Moderator, Asia Pacific Academic Consrotium for Public Health (APACPH) meeting, Busan, Korea 22-25, 2024

18. Manami Uehara, Inthanomchan Vongphoumy, Khampeng Fongluexa, Jun Kobayashi. A Qualitative Study of the Roles of Male-Female Village Health Volunteers Working as a Pair on Primary Maternal Health Care among Ethnic Women., Symposium Leading-edge research into women’s and children’s health and its translation into policy in Lao PDR Chair: Prof. Jun Kobayashi, University of the Ryukyus, National Health Research Forum, Vietntiane, Lao PDR 24-25, 2024

19. Ginoza, A. “Droplet of Fukugi Tree’: Performing Demilitarization in Okinawa.” Native American and Indigenous Studies Conference.

20. 鈴木規之「スリチャイ・ワンゲーオの問題意識：開発と市民社会の視点から（スリチャイ先生から学んだもの）」日本タイ学会 2024 年度研究大会、大阪、大阪公立大学杉本キャンパス、2024 年 7 月 6 日

21. Suzuki, Noriyuki. and Vongxay, Phonemany. The formation of Cooperative Network for Bottom-up Approach in Rural Community Development of Lao PDR- How the concept of social capital is used to analyze Lao society within three contrastive communities, The 6th Seminar on Education for Community Development in Southeast Asia. Vientiane, Lao P.D.R., Sep 27, 2024.

22. Suzuki, Noriyuki. Dynamics of Civil Society Movements and Roles of Local Communities in Northeastern Thailand, The 15th International Conference on Thai Studies . Chonburi, Thailand, Jul 12, 2024.

23. 越中 康治・目久田 純一・徳岡 大・淡野 将太・長谷川 真里「攻撃行動に対する小学生の善悪判断 (2)——道徳感情推測の発達的变化と善悪判断との関連——」発達心理学会第 36 回大会、東京、2025 年 3 月 4 日 -6 日

24. 目久田 純一・越中 康治・徳岡 大・淡野 将太・長谷川 真里「攻撃行動に対する小学生の善悪判断 (1)——善悪判断と仮説的推論の発達的变化——」発達心理学会第 36 回大会、東京、2025 年 3 月 4 日 -6 日
25. 當山奈那「与論方言の可能表現」沖縄言語研究センター定例研究会、沖縄・西原、2024 年 5 月 11 日
26. 當山奈那「石垣四箇方言の可能表現（調査報告）」沖縄言語研究センター定例研究会、沖縄・西原、2024 年 10 月 5 日
27. 内藤重之・杉村泰彦・矢野泉「仲卸業者の卸売市場制度改革による影響の捉え方と事業展開」日本農業市場学会 2024 年度大会、青森・弘前、2024 年 7 月 21 日
28. 山本淳子・内藤重之「地域特産物に対する旅行者の喫食・購買行動—島らっきょうを事例として—」日本農業市場学会 2024 年度大会、青森・弘前、2024 年 7 月 21 日
29. 中根可南子・山本淳子・内藤重之「新規参入者を主体とした生産者組織による参入支援の特徴と課題」日本農業市場学会 2024 年度大会、青森・弘前、2024 年 7 月 21 日
30. 内藤重之・杉村泰彦・矢野泉「卸売市場制度改革に伴う青果物卸売業者の事業展開に関する地域的特徴」2024 年度食農資源経済学会第 18 回大会、宮崎・高千穂、2024 年 9 月 8 日
31. Kazuhiko Tanaka, Ame Garong, Kaishi Yamagiwa, Eusebio Z. Dizon, Okuno Mitsuru. The Austronesian expanding colonization in Batanes and Lallo, Cagayan Valley, Philippines. European Roundtable on Southeast Asian Archaeology: Current Research and Perspectives, Paris, France, July 8, 2024.

【その他の口頭発表】

1. 漢那洋子「紫外線で固まるジェルでオリジナルグッズを作ろう！～光化学のふしぎ～（実験科学講座）」、沖縄県委託事業 令和6年度 子供科学技術人材育成事業（小学校高学年ボトムアップ講座）、琉球大学理学部（沖縄県・西原町）、2024年12月22日
2. 漢那洋子「漢那先生とUVレジンでつくる クリスマスオーナメント（実験科学講座）」、沖縄県委託事業 令和6年度 子供科学技術人材育成事業（サイエンステックフェス in 那覇）、那覇メインプレイス（沖縄県・那覇市）、2024年12月15日
3. 漢那洋子「光と色と化学変化～光で物質を変える～（実験科学講座）」、沖縄県委託事業 令和6年度 子供科学技術人材育成事業（サイエンステックフェス in 宮古島）、宮古島市立平良中学校（沖縄県・宮古島市）、2024年07月28日
4. 漢那洋子「光化学の不思議（実験科学講座）」、沖縄県委託事業 令和6年度 子供科学技術人材育成事業（サイエンステックキャラバン in 渡名喜）、渡名喜小中学校（沖縄県・渡名喜村）、2024年07月18日
5. Ginoza, A. NHK World Interview. <https://www3.nhk.or.jp/nhkworld/en/radio/asianview/>. 2025年7月31日.
6. Ginoza, A. Moderator. Symposium Feminism and Intersectionality in Okinawa. November 1, 2025.
7. Suzuki, Noriyuki. The Formation of Cooperative Network for bottom-up Approach in Rural Community Development of Lao PDR (JSPS Core-to-Core Program): Introduction of the project, International Seminar on The Formation of Cooperative Network for bottom-up Approach in Rural Community Development of Lao PDR, Supported by Japan Society for the Promotion of Science (JSPS), National University of Laos, Vientiane, Lao P.D.R., Mar 5, 2025.
8. 當山奈那「ヘンザグチヒ カタヤビラ（平安座のことばで話そう）ー琉球諸語のテキストー」琉大附属図書館企画展「琉大資料がつなぐあやはし・うるまの今昔」沖縄・うるま市
9. 當山奈那「沖縄諸島における教材作成ー音声教材の作成と生成 AI を介した言語習得ー」沖縄県の地域教育の関する研修、沖縄・那覇、2025年3月13日
10. 當山奈那「沖縄のことば、聞いて・話して・未来へー音声教材 & AI で学ぶー」地域のことばと文化 近未来展、鹿児島県・鹿児島市、2025年3月15日、16日
11. 鳥山淳「沖縄近現代史における“3つの半世紀”と日本国家の責任を考える」武漢大学日本研究センター第3回沖縄研究シンポジウム「沖縄近現代の歩み～「琉球処分」から145年を振り返って」オンライン開催 2024年9月21日
12. 波多野想「メタバースを活用した空き家対策と地域づくり」国際空き家サミット、沖縄・宮古島、2024年5月22日。
13. 波多野想・山極海嗣「セメント瓦ワークショップ～セメント瓦を知る、見る、触る、考える！～」琉大資料がつなぐあやはし うるまの今昔：令和6年度琉球大学附属図書館企画展関連イベント、沖縄・うるま市、2024年10月12日。
14. 藤田陽子「パラオにおける珊瑚礁の経済価値、島嶼地域科学：島嶼研究への新たなアプローチの構築」SDGs 推進本部 SDGs 研究部門主催ランチタイムセミナー、2024年8月6日
15. 宮内久光「近代沖縄における海外移民の歴史地理」2024年度沖縄地理学会市民講座、沖縄・那覇、2024年7月27日
16. 宮内久光「沖縄県宮古島における日本本土への季節労働移動」令和6年度 地域文化科学プログラム研究報告会、沖縄・西原、2025年3月24日
17. 宮里厚子「琉球王国におけるフランス人宣教師の語学習得」国際研究集会 2025 <教育における他者性>、京都・京都大学、2025年2月8日
18. 山野ケン陽次郎、山極海嗣、片岡修「マリアナ諸島の人類はどこから来たか - 貝製品からの分析 -」第70回考古学研究会、奈良・天理市、2024年4月20日。

19. 山極海嗣、波多野想「セメント瓦ワークショップ～セメント瓦を知る、見る、触る、考える！～」琉大資料がつなぐあやはし うるまの今昔：令和6年度琉球大学附属図書館企画展関連イベント、沖縄・うるま市、2024年10月12日。
20. Ame Garong, Kaishi Yamagiwa, Eusebio Dizon, Kazuhiko Tanaka, Mitsuru Okuno. An update on the “Eruptive history of Iraya Volcano and the exchange history between Taiwan and Luzon viewed from the archaeological sites of Batan Island in the Philippines”. Closing Seminar: A collaborative project between the National Museum of the Philippines, Osaka Metropolitan University, Tsurumi University and University of the Ryukyus, Basco, Batanes, Feb 28, 2025.
21. Yamazato, Kinuko. Yuki Okabe, and Hiromi Kijo. Inter-island Sustainability Educational Program. The 2nd International Symposium on Inter-island Sustainability Educational Program, University of the Ryukyus. Addressing Inter-island Challenges of Okinawa, Hawai’i and Taiwan. Nishihara, Okinawa, Nov. 4, 2024.

2. 教育活動（専任教員）

【琉球大学における教育活動：学部教育】

| 担当者    | 授業科目等                     | 開講学部等                 | 備考      |
|--------|---------------------------|-----------------------|---------|
| 波多野 想  | 地域・国際実践力演習Ⅲ               | 国際地域創造学部              |         |
| 波多野 想  | 島嶼観光入門                    | 国際地域創造学部              |         |
| 波多野 想  | 地域・国際実践力演習Ⅳ               | 国際地域創造学部              |         |
| 波多野 想  | 卒業研究                      | 国際地域創造学部              |         |
| 波多野 想  | 島嶼地域科学入門                  | 共通教育科目                | オムニバス授業 |
| 波多野 想  | 観光地域デザイン入門Ⅰ<br>ーテーマ型ツーリズム | 国際地域創造学部              | オムニバス授業 |
| 波多野 想  | 地域文化資源と博物館                | 国際地域創造学部              | オムニバス授業 |
| 鳥山 淳   | 島嶼地域科学入門                  | 共通教育科目                | オムニバス授業 |
| 鳥山 淳   | 平和論                       | 共通教育科目                | オムニバス授業 |
| 藤田 陽子  | 環境経済学                     | 国際地域創造学部・<br>農学部・法文学部 | 昼間主・夜間主 |
| 藤田 陽子  | 島嶼社会経済入門                  | 国際地域創造学部              | オムニバス授業 |
| 藤田 陽子  | 島嶼地域科学入門                  | 共通教育科目                | オムニバス授業 |
| 藤田 陽子  | 総合環境学概論                   | 共通教育科目                | オムニバス授業 |
| 宜野座 綾乃 | ジェンダー学とインターセクショナリティ       | 共通教育科目                | 前期      |
| 宜野座 綾乃 | 島嶼地域科学入門                  | 共通教育科目                | オムニバス授業 |
| 宜野座 綾乃 | 琉球学入門                     | 共通教育科目                | オムニバス授業 |
| 宜野座 綾乃 | 平和学                       | 共通教育科目                | オムニバス授業 |
| 山極 海嗣  | 島嶼地域科学入門                  | 共通教育科目                | オムニバス授業 |
| 山極 海嗣  | 琉球学入門                     | 共通教育科目                | オムニバス授業 |

## 【琉球大学における教育活動：大学院教育】

| 担当者    | 授業科目等         | 開講学部等           | 備考               |
|--------|---------------|-----------------|------------------|
| 波多野 想  | 島嶼文化資源論 A     | 地域共創研究科         |                  |
| 波多野 想  | 島嶼文化資源論 B     | 地域共創研究科         |                  |
| 波多野 想  | 観光・交流と地域共創    | 地域共創研究科         | オムニバス授業          |
| 波多野 想  | 地域共創入門        | 地域共創研究科         | オムニバス授業          |
| 鳥山 淳   | 近現代沖縄政治社会史特論  | 地域共創研究科         |                  |
| 鳥山 淳   | 地域共創特別演習      | 地域共創研究科         |                  |
| 鳥山 淳   | 比較地域文化総合演習    | 人文社会科学研究科博士後期課程 |                  |
| 鳥山 淳   | 比較地域文化特別研究    | 人文社会科学研究科博士後期課程 |                  |
| 鳥山 淳   | 近現代沖縄史学特論     | 人文社会科学研究科博士後期課程 |                  |
| 鳥山 淳   | 近現代沖縄史学演習     | 人文社会科学研究科博士後期課程 |                  |
| 藤田 陽子  | 環境経済学特論 A・B   | 地域共創研究科         |                  |
| 藤田 陽子  | 島嶼環境経済論 A・B   | 地域共創研究科         |                  |
| 藤田 陽子  | 沖縄・島嶼と地域共創    | 地域共創研究科         | 科目責任者<br>オムニバス授業 |
| 藤田 陽子  | 研究リテラシー       | 地域共創研究科         | オムニバス授業          |
| 藤田 陽子  | SDGs と地域共創    | 地域共創研究科         | オムニバス授業          |
| 藤田 陽子  | 島嶼環境経済演習      | 人文社会科学研究科博士後期課程 |                  |
| 藤田 陽子  | 比較地域文化総合演習Ⅰ～Ⅳ | 人文社会科学研究科博士後期課程 | チームティーチング        |
| 宜野座 綾乃 | ネイティブの表象文化論   | 地域共創研究科         | 通年               |
| 宜野座 綾乃 | 沖縄・島嶼と地域共創    | 地域共創研究科         | オムニバス授業          |
| 山極 海嗣  | 島嶼人類学 A       | 地域共創研究科         |                  |
| 山極 海嗣  | 島嶼人類学 B       | 地域共創研究科         |                  |
| 山極 海嗣  | 沖縄・島嶼と地域共創    | 地域共創研究科         | オムニバス授業          |

【琉球大学における教育活動：研究指導大学院生，研究生等の受入】

| 担当者    | 種別・課程など<br>(研究生の場合は最終学歴) | 研究テーマ                              | 備考 |
|--------|--------------------------|------------------------------------|----|
| 鳥山 淳   | 大学院生・修士課程（研究指導）          | 人々の生活史から見た「コザ騒動」                   |    |
| 鳥山 淳   | 大学院生・博士後期課程（研究指導）        | 無国籍児童の権利回復から見る戦後沖縄における女性と子ども       |    |
| 鳥山 淳   | 大学院生・博士後期課程（研究指導）        | 沖縄戦における男子学徒隊の動員をめぐる諸問題             |    |
| 鳥山 淳   | 大学院生・博士後期課程（研究指導）        | 戦後沖縄における貧困の形態と社会的紐帯                |    |
| 鳥山 淳   | 大学院生・博士後期課程（研究指導）        | 戦後沖縄における思想的闘争の屈折と展開                |    |
| 宜野座 綾乃 | 大学院生・修士課程                | Native American Identity in a City | 副査 |
| 藤田 陽子  | 大学院生・博士後期課程（副指導教員）       |                                    |    |
| 藤田 陽子  | 大学院生・修士課程（副指導教員）         |                                    |    |

## 【学外における教育活動】

| 担当者    | 授業科目等                  | 開講機関・学部等      | 備考         |
|--------|------------------------|---------------|------------|
| 鳥山 淳   | 沖縄平和論                  | 沖縄国際大学・総合文化学部 |            |
| 藤田 陽子  | 環境と経済                  | 沖縄大学・経法商学部    |            |
| 宜野座 綾乃 | 英語購読 VI                | 沖縄キリスト教学院大学   |            |
| 宜野座 綾乃 | Reading and Writing I  | 沖縄大学          |            |
| 宜野座 綾乃 | Reading and Writing II | 沖縄大学          |            |
| 宜野座 綾乃 | 博士課程後期論文審査             | 同志社大学         | 副査         |
| 山極 海嗣  | アジア考古学                 | 沖縄国際大学・総合文化学部 | オムニバス 2 コマ |

3. 社会連携（専任教員）

【社会活動・地域貢献（学外団体委員等）】

| 氏名     | 活動内容                                                           | 活動期間               |
|--------|----------------------------------------------------------------|--------------------|
| 波多野 想  | 沖縄総合事務局開発建設部景観委員会（委員、事業景観アドバイザー）                               | 2024 年度            |
| 波多野 想  | 沖縄県景観評価委員会（委員）                                                 | 2024 年度            |
| 波多野 想  | 沖縄県景観形成審議会（委員）                                                 | 2024 年度            |
| 波多野 想  | 那覇市都市景観審議会（会長）                                                 |                    |
| 波多野 想  | 浦添市景観まちづくり審議会（委員）                                              | 2024 年度            |
| 波多野 想  | 沖縄都市モノレール車体利用広告審査会（委員）                                         | 2024 年度            |
| 波多野 想  | 沖縄市名勝アマミクヌイ「越来グスク」整備委員会（副委員長）                                  | 2024 年度            |
| 波多野 想  | 沖縄県文化財保護審議会専門委員会（専門委員）                                         | 2024 年度            |
| 鳥山 淳   | 沖縄県史編集委員会                                                      | 2024 年度<br>通年      |
| 鳥山 淳   | 豊見城市史『社会と文化・教育編』専門部会                                           | 2024 年度<br>通年      |
| 鳥山 淳   | 沖縄市史編集委員会                                                      | 2024 年度<br>通年      |
| 鳥山 淳   | 沖縄県平和祈念資料館展示更新監修委員会                                            | 2024 年度<br>通年      |
| 藤田 陽子  | サンゴ礁生態系保全行動計画 2022-2030 評価指標検討会委員                              | 2024 年度            |
| 藤田 陽子  | 日本学術振興会特別研究員等審査会専門委員・卓越研究員候補者<br>選考委員会書面審査及び国際事業委員会書面審査員・書面評価員 | 2024 年 6 月<br>任期満了 |
| 藤田 陽子  | 第 9 期那覇市都市みらい部及びまちなみ共創部指定管理者選定<br>委員会（委員長）                     | 2024 年度            |
| 藤田 陽子  | 沖縄県公害審査会委員                                                     | 2024 年度            |
| 宜野座 綾乃 | アレン奨学会顧問                                                       | 通年                 |
| 宜野座 綾乃 | 「女性・戦争・人権」学会 運営委員                                              | 通年                 |
| 山極 海嗣  | 東南アジア考古学会・大会担当委員                                               | 2014 年度            |
| 山極 海嗣  | 沖縄考古学会・南島考古だより担当役員                                             | 2024 年度            |
| 山極 海嗣  | 国立民族学博物館・人間文化研究機構機関研究プロジェクト連携研<br>究員                           | 2024 年度            |

## 【国際活動・国際協力等】

| 氏名     | 活動内容                                    | 活動期間           |
|--------|-----------------------------------------|----------------|
| 宜野座 綾乃 | 国際小島嶼学会理事                               | 2022 年～        |
| 宜野座 綾乃 | Folk, Knowledge, Place アドバイザリーボード       | 2022 年～        |
| 宜野座 綾乃 | Okinawan Journal of Island Studies 編集長  | 2019 年～ 2024 年 |
| 宜野座 綾乃 | Okinawan Journal of Island Studies 編集委員 | 2024 年～ 2026 年 |

## 【所属学会】

| 氏名     | 学会名                                                |
|--------|----------------------------------------------------|
| 波多野 想  | 日本島嶼学会                                             |
| 鳥山 淳   | 日本平和学会                                             |
| 鳥山 淳   | 同時代史学会                                             |
| 鳥山 淳   | 琉球沖縄歴史学会                                           |
| 藤田 陽子  | 日本島嶼学会                                             |
| 藤田 陽子  | 日本地域学会                                             |
| 藤田 陽子  | 環境経済・政策学会                                          |
| 宜野座 綾乃 | 「女性・戦争・人権」学会                                       |
| 宜野座 綾乃 | American Studies Association                       |
| 宜野座 綾乃 | Native American and Indigenous Studies Association |
| 宜野座 綾乃 | 日本オーラルヒストリー学会                                      |
| 山極 海嗣  | 東南アジア考古学会                                          |
| 山極 海嗣  | 沖縄考古学会                                             |
| 山極 海嗣  | 日本オセアニア学会                                          |



## IV. 外部資金等研究費獲得状況

---

1. 科学研究費助成事業
2. その他の競争的資金
3. 受託研究

# 1. 科学研究費助成事業

【研究代表】

| 研究種目                                     | 代表者    | 期間             |
|------------------------------------------|--------|----------------|
| 研究科題名                                    |        |                |
| 基盤研究（B）                                  | 山極 海嗣  | 2024 ～ 2028 年度 |
| 先史南琉球をモデルとした「モザイク状境界領域」の形成に関する研究         |        |                |
| 基盤研究（C）                                  | 波多野 想  | 2020 ～ 2024 年度 |
| 日本植民地下台湾における金瓜石鉱山の開発と事業圏域の拡大             |        |                |
| 基盤研究（C）                                  | 宜野座 綾乃 | 2019 ～ 2024 年度 |
| 女性琉球舞踊指導者のアメリカ社会におけるエイジェンシーの分析           |        |                |
| 基盤研究（C）                                  | 内藤 重之  | 2024 ～ 2026 年度 |
| 物流危機下における卸売業者の事業展開とそれが市場流通構造・産地に与える影響の解明 |        |                |
| 基盤研究（C）                                  | 野入 直美  | 2022 ～ 2024 年度 |
| 米軍統治下の沖縄における奄美籍者の公職追放―「琉球人」から排除された者たちの移動 |        |                |
| 基盤研究（C）                                  | 當山 奈那  | 2023 ～ 2025 年度 |
| 沖縄島内の諸言語における教材開発と実践                      |        |                |
| 基盤研究（C）                                  | 宮里 厚子  | 2023 ～ 2025 年度 |
| 在フランス琉球・沖縄関連史料の目録作成とその研究                 |        |                |
| 若手研究                                     | 山里 絹子  | 2022 ～ 2025 年度 |
| オキナワ・ディアスポラにおける戦争の記憶継承に関する基礎的研究          |        |                |

| 研究種目                                   | 代表者   | 期間             |
|----------------------------------------|-------|----------------|
| 研究科題名                                  |       |                |
| 国際共同研究加速基金（国際共同研究強化(B)）                | 鈴木 規之 | 2020 ～ 2025 年度 |
| タイの開発と市民社会形成のプロセス－プラチャーコム（住民組織）のダイナミズム |       |                |

【研究分担】

| 研究種目                                     | 代表者      | 分担者            | 期間             |
|------------------------------------------|----------|----------------|----------------|
| 研究科題名                                    |          |                |                |
| 基盤研究（B）                                  | 又吉 里美    | 當山 奈那          | 2024 ～ 2028 年度 |
| 琉球諸語における指示詞の総合的研究                        |          |                |                |
| 基盤研究（B）                                  | 新井 祥穂    | 宮内 久光          | 2021 ～ 2024 年度 |
| コロナ禍後の農業・農村の動態変化に関する比較研究                 |          |                |                |
| 基盤研究（B）                                  | 坂井 美日    | 當山 奈那          | 2024 ～ 2028 年度 |
| 九州・沖縄方言の継承支援に資する音声対話型生成系 AI の開発          |          |                |                |
| 基盤研究（C）                                  | 崎原 正志    | 當山 奈那          | 2021 ～ 2024 年度 |
| 消滅の危機に瀕した琉球諸語沖縄本部町の伝統・新設集落の方言の記述文法       |          |                |                |
| 基盤研究（C）                                  | 秋林 こずえ   | 宜野座 綾乃         | 2022 ～ 2025 年度 |
| 冷戦と性暴力ー北東アジアの長期駐留軍とインターセクショナルフェミニズム      |          |                |                |
| 基盤研究（C）                                  | 村岡 敬明    | 池上 大祐          | 2023 ～ 2028 年度 |
| 基地公害をめぐる米国と地域住民の対応ー「グローバル環境正義」論の構築に向けてー  |          |                |                |
| 基盤研究（C）                                  | 越中 康治    | 目久田純一・淡野将太・徳岡大 | 2020 ～ 2024 年度 |
| 攻撃行動に対する小学生の善悪判断の発達的变化：仮説的推論と道徳感情帰属に着目して |          |                |                |
| 基盤研究（C）                                  | 坂井 教郎    | 内藤 重之          | 2020 ～ 2024 年度 |
| 島嶼農業の産地形成と物流問題                           |          |                |                |
| 基盤研究（C）                                  | 山野 ケン陽次郎 | 山極 海嗣          | 2022 ～ 2024 年度 |
| 完新世におけるミクロネシアの人類拡散の考古学的再検証ー貝製品を中心にー      |          |                |                |
| 国際共同研究加速基金<br>（海外連携研究）                   | 奥野 充     | 山極 海嗣          | 2023 ～ 2026 年度 |
| フィリピン、バタン島の考古遺跡から見たイラヤ火山の噴火史と台湾とルソン島の交流史 |          |                |                |



2. その他競争的資金

| 担当者                              | 支出機関                                | 期間             |
|----------------------------------|-------------------------------------|----------------|
| 研究科題名                            |                                     |                |
| 波田野 悠夏・山極 海嗣・田村 光平               | 笹川科学研究助成学術研究部門 人文・社会系（海に<br>関係する研究） | 2023 ～ 2024 年度 |
| 分野横断型の物質文化解析による日本列島南西端の島嶼文化起源の解明 |                                     |                |

### 3. 受託研究

| 担当者                                                                         | 支出機関          | 期間             |
|-----------------------------------------------------------------------------|---------------|----------------|
| 研究科題名                                                                       |               |                |
| 鈴木規之（コーディネーター）                                                              | 独立行政法人日本学術振興会 | 2022 ～ 2024 年度 |
| 研究課題名 研究拠点形成事業（B. アジア・アフリカ学術基盤形成型）「ラオスにおけるボトムアップ型農村コミュニティ開発のための協力ネットワークの形成」 |               |                |



## V . 研究所運営

---

1. 研究所会議
2. 所内委員会組織
3. 協議委員会
4. 共同利用・共同研究運営委員会
5. 専任教員ミーティング
6. 広報

1. 研究所会議

Microsoft Teams にてオンライン開催

| 月 | 日       | 会議名                | 摘要                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|---|---------|--------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 4 | 10      | 第 1 回 研究所会議        | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 協議 1. 研究基盤経費の戦略的執行について</li><li>・ 協議 2. Okinawan Journal of Island Studies (OJIS) の Asian Journal Network 加入について</li><li>・ 報告 1. 2024 年度予算について</li><li>・ 報告 2. Okinawan Journal of Island Studies 第 5 号の発刊について（進捗）</li><li>・ 報告 3. 『島嶼地域科学』第 5 号の発刊について（進捗）</li><li>・ 連絡 1. 2024 年度の事務スタッフ勤務体制について</li></ul> |
| 5 | 8       | 第 2 回 研究所会議        | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 議題 1. Okinawan Journal of Island Studies (OJIS) 編集委員会規程について</li><li>・ 議題 2. 客員研究員の期間延長申請について</li><li>・ 議題 3. Okinawan Journal of Island Studies (OJIS) 編集委員長について</li><li>・ 報告 1. 教育研究機能促進経費（KPI 配分）について</li><li>・ 報告 2. 査読誌の編集状況について</li><li>・ 連絡 1. 次回研究所会議について</li></ul>                                  |
| 6 | 12      | 第 3 回 研究所会議        | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 議題 1. 2023 年度島嶼地域科学研究所決算（案）について</li><li>・ 議題 2. 2024 年度島嶼地域科学研究所予算（案）について</li><li>・ 報告 1. 令和 6 年度学長特別政策経費教育研究機能促進経費（KPI 配分）および令和 6 年度教育研究機能促進経費（プロセス配分）の用途計画について</li><li>・ 協議 1. 琉球沖縄歴史学会 2024 年大会の後援について</li><li>・ 連絡 1. 次回研究所会議について</li></ul>                                                             |
| 6 | 24 - 28 | 第 4 回 研究所会議（メール審議） | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 議題. 2024 年度客員研究員の受入期間変更について</li></ul>                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 8 | 14      | 第 5 回 研究所会議        | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 議題 1. 客員研究員受入れ期間変更申請書の策定について</li><li>・ 議題 2. 客員研究員期間変更申請について</li><li>・ 議題 3. 教員選考調書作成委員会の設置について</li><li>・ 報告 1. 令和 6 年度教育研究機能促進経費（プロセス配分）用途について</li><li>・ 報告 2. 今年度の外国人客員研究員の活動について</li><li>・ 報告 3. 今年度のテーマ設定型共同研究について</li><li>・ 報告 4. 今年度のレクチャーシリーズについて（確定のみ）</li><li>・ 連絡 1. 次回研究所会議について</li></ul>        |

| 月  | 日             | 会議名                    | 摘要                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|----|---------------|------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 10 | 9             | 第 6 回 研究所会議            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 議題 1. 2023 年度島嶼地域科学研究所所報について</li> <li>・ 協議 1. 令和 7 年度概算要求について</li> <li>・ 報告 1. 2025 年度以降の共通教育科目「島嶼地域科学入門」の開講について</li> <li>・ 報告 2. 沖縄関係外交資料の附属図書館リポジトリ格納について</li> <li>・ 報告 3. 今年度のレクチャーシリーズについて</li> <li>・ 連絡 1. 次回研究所会議について</li> </ul> |
| 10 | 24<br>-<br>30 | 第 7 回 研究所会議<br>(メール審議) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 議題. 客員研究員の受入について</li> </ul>                                                                                                                                                                                                            |
| 11 | 18            | 第 8 回 研究所会議            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 議題 1. OJIS 編集委員会委員 (第 6 号、第 7 号) について</li> <li>・ 議題 2. 国立虎尾科技大学 (台湾雲林県) と琉球大学島嶼地域科学研究所との連携・協力に関する覚書の更新について</li> <li>・ 報告 1. 今年度のレクチャーシリーズについて</li> <li>・ 連絡 1. 次回研究所会議について</li> </ul>                                                  |
| 12 | 11            | 第 9 回 研究所会議            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 議題 1. 人事について</li> <li>・ 報告 1. OJIS 第 5 号の発刊について</li> <li>・ 報告 2. 今年度のレクチャーシリーズについて</li> <li>・ 連絡 1. 次回研究所会議について</li> </ul>                                                                                                             |
| 1  | 10            | 第 10 回 研究所会議           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 議題 1. 2025 年度客員研究員申請について</li> <li>・ 議題 2. 台北科技大学との MoU 締結について</li> <li>・ 議題 3. 国語研との協定更新について</li> <li>・ 議題 4. 2025 年度併任教員継続意思確認について</li> <li>・ 報告 1. 虎尾科技大学との学術交流協定書 (案) の内容修正について</li> <li>・ 連絡 1. 次回研究所会議について</li> </ul>             |
| 2  | 12            | 第 11 回 研究所会議           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 議題 1. 2025 年度併任教員 (案) について</li> <li>・ 議題 2. 研究所運営体制について</li> <li>・ 協議 1. 終刊誌掲載論文のリポジトリ格納／転載等の要望に対する対応</li> <li>・ 報告 1. 次号定期刊行物の出版準備状況について</li> <li>・ 連絡 1. 次回研究所会議について</li> </ul>                                                      |
| 3  | 12            | 第 12 回 研究所会議           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 議題 1. 2025 年度共同利用・共同研究事業について</li> <li>・ 議題 2. 終刊誌掲載論文のリポジトリ格納／転載等の要望に対する対応について</li> <li>・ 報告 1. 次号定期刊行物の出版準備状況について</li> <li>・ 報告 2. レクチャーシリーズについて</li> <li>・ 報告 3. 次年度の予算配分額について</li> <li>・ 連絡 1. 所長交代に伴う挨拶</li> </ul>                 |

2. 所内委員会組織

(1) 共同利用・共同研究運営委員会

| 月 | 日  | 会議名                         | 摘要                                                                                                                                                                      |
|---|----|-----------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 3 | 13 | 第 1 回<br>共同利用・共同研<br>究運営委員会 | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 議題 1. 令和 7 年度共同利用・共同研究事業について（審議）</li><li>・ 議題 2. 令和 6 年度本研究所の活動（報告）</li><li>・ 議題 3. 令和 7 年度以降の共同利用・共同研究事業のあり方について（協議）</li></ul> |

(2) 協議委員会

| 月 | 日  | 会議名            | 摘要                                                                                                                          |
|---|----|----------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 3 | 13 | 第 1 回<br>協議委員会 | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 議題 1. 令和 6 年度島嶼地域科学研究所の活動について</li><li>・ 議題 2. 令和 7 年度島嶼地域科学研究所の活動について（計画）</li></ul> |

(3) *Okinawan Journal of Island Studies (OJIS)* 編集委員会

| 月  | 日         | 会議名                                         | 摘要                                                                                                                         |
|----|-----------|---------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2  | 9         | 第1回<br>Volume6 Special Topic ゲスト<br>エディター会議 | <ul style="list-style-type: none"> <li>議題 1. 特集テーマについて</li> <li>議題 2. 編集作業工程について</li> </ul>                                |
| 10 | 9         | 第2回<br>Volume6 Special Topic ゲスト<br>エディター会議 | <ul style="list-style-type: none"> <li>議題 1. 投稿論文の取り扱いについて</li> <li>議題 2. 査読者の選定について</li> <li>議題 3. 今後の編集作業について</li> </ul> |
| 11 | 15        | 第1回 OJIS 編集委員会会議                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>議題 1. 投稿状況について</li> <li>議題 2. 査読者の選定について</li> <li>議題 3. 今後の編集作業について</li> </ul>      |
| 1  | 16<br>～17 | 第3回<br>Volume6 Special Topic ゲスト<br>エディター会議 | <ul style="list-style-type: none"> <li>議題 1. 投稿論文の掲載について</li> </ul>                                                        |
| 1  | 29        | 第2回 OJIS 編集委員会会議                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>議題 1. 一般論題投稿論文および書評の掲載について</li> <li>議題 2. 校閲作業・編集作業の進め方について</li> </ul>              |

## (4) 『島嶼地域科学』編集委員会

| 月  | 日         | 会議名                    | 摘要                                                                                                 |
|----|-----------|------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 4  | 4         | 『島嶼地域科学第5号』第1回編集委員会会議  | <ul style="list-style-type: none"> <li>議題 1. 研究論文の掲載可否について</li> <li>議題 2. 研究ノート取り扱いについて</li> </ul> |
| 5  | 17<br>～22 | 【電子編集委員会】              | <ul style="list-style-type: none"> <li>議題 1. 研究論文の掲載について</li> <li>議題 2. 掲載論考の確定について</li> </ul>     |
| 6  | 30        | 『島嶼地域科学 第5号』J-STAGE 公開 |                                                                                                    |
| 12 | 6<br>～12  | 【電子編集委員会】              | <ul style="list-style-type: none"> <li>議題 1. 投稿受理の期限について</li> <li>議題 2. 査読者の検討について</li> </ul>      |
| 1  | 6<br>～7   | 【電子編集委員会】              | 議題 1. 投稿の受理について                                                                                    |
| 1  | 9<br>～16  | 【電子編集委員会】              | 議題 1. 査読候補者の選定について                                                                                 |
| 1  | 4～7       | 【電子編集委員会】              | 議題 1. 研究論文の掲載可否について                                                                                |

3. 専任教員ミーティング

| 月  | 日  | 会議名                             |
|----|----|---------------------------------|
| 4  | 3  | 第 1 回 専任教員ミーティング                |
| 4  | 17 | 第 2 回 専任教員ミーティング                |
| 5  | 1  | 第 3 回 専任教員ミーティング                |
| 5  | 15 | 第 4 回 専任教員ミーティング                |
| 5  | 29 | 第 5 回 専任教員ミーティング                |
| 6  | 5  | 第 6 回 専任教員ミーティング                |
| 6  | 19 | 第 7 回 専任教員ミーティング                |
| 7  | 3  | 第 8 回 専任教員ミーティング                |
| 7  | 17 | 第 9 回 専任教員ミーティング                |
| 8  | 7  | 第 10 回 専任教員ミーティング               |
| 9  | 25 | 第 11 回 専任教員ミーティング               |
| 10 | 2  | 第 12 回 専任教員ミーティング               |
| 10 | 16 | 第 13 回 専任教員ミーティング               |
| 10 | 23 | 第 14 回 専任教員ミーティング               |
| 11 | 6  | 第 15 回 専任教員ミーティング               |
| 11 | 27 | 第 16 回 専任教員ミーティング／安全保障輸出管理関係 FD |
| 12 | 4  | 第 17 回 専任教員ミーティング               |
| 12 | 25 | 第 18 回 専任教員ミーティング               |
| 1  | 22 | 第 19 回 専任教員ミーティング               |
| 2  | 5  | 第 20 回 専任教員ミーティング               |
| 2  | 26 | 第 21 回 専任教員ミーティング               |
| 3  | 5  | 第 22 回 専任教員ミーティング               |

## 4. 広報

島嶼地域科学研究所ではWebサイトおよびSNSを通して、研究所の取り組みや活動、各種イベント、データベース等、最新情報からこれまでに蓄積された研究成果まで幅広い情報を広報している。

島嶼地域科学研究所 Web サイト <https://riis.skr.u-ryukyu.ac.jp/>

島嶼地域科学研究所に関する情報や告知を発信する基本的な媒体として活用している。本サイトでは研究所に関する情報の他に学術データベースも担っており、こうしたコンテンツへのアクセスも多い。2024年度は17件のお知らせを発信した。特に本年度はレクチャーシリーズの実施が活発化したこともあり、イベント告知が充実した。



島嶼地域科学研究所公式フェイスブック <https://www.facebook.com/RIIS.u.ryukyus/>

島嶼地域科学研究所ウェブサイトで公開した情報をベースに情報を更新している。海外の方向けに、日本語と英語の両方で情報を発信している。2024年度は、18件を新規投稿した。フォロワーは124人（2024年7月現在）で、フォロワー数は増加傾向にある（前年比10人増）。



島嶼地域科学研究所公式ツイッター（現エックス） [https://twitter.com/Riis\\_Ryukyu](https://twitter.com/Riis_Ryukyu)

島嶼地域科学研究所ウェブサイトで公開された情報を基に国内外へ向けて日英両言語で情報を発信している。Twitterではインタラクティブ性も考慮して、ちょっとした研究活動などの情報を発信するなど実験的な活動にも取り組んでいる。2024年度は36件の情報を投稿した。フォロワー数は140人（2023年8月現在）となっており、Facebookよりも増加傾向にある（前年比15人増）。





## VI. 付属資料

---

### 1. RIIS レクチャーシリーズ 2024 ポスター

1. RIIS レクチャーシリーズ 2024 ポスター



琉球大学島嶼地域科学研究所  
レクチャーシリーズ  
2024年度第1回

人類史研究のための公正な知識  
生産システムの構築に向けて

10月18日（金）16:30~18:00



講演者：田村 光平 先生  
（琉球大学島嶼地域科学研究所・客員研究員  
東北大学東北アジア研究センター・准教授）

「疑わしい研究慣行」「再現可能性」「オープンサイエンス」「資料の帰属に関する倫理」…様々な動向が学術のあり方自体に変化を迫っている。特に近年は、国境や分野の壁を超えて制度として実装される傾向があり、自他ともに牧歌的であることを認めていた人類史の研究も無縁ではいられなくなっている。本発表では、まだ途上ではあるものの、文化データの数理解析、考古学遺物の三次元計測、デジタルアーカイブなどを関連させた、人類史研究の知的生産のあり方に関する講演者の試みについて紹介したい。

講演形式：対面・オンラインハイブリッド形式  
日時：2024年10月18日（金）16:30~18:00  
講演会場：琉球大学附属図書館 2F ラーニングcommons（対面参加の場合）  
参加費：無 料  
申込み方法：右記のQRコード、或いは下記URL先のフォームからお申し込みください。  
申込みフォーム：<https://forms.gle/HQ8F3FL1dBS5oSfPA>  
申込み締切：2024年10月11日（金）正午  
※対面、オンラインのいずれかを申込みフォーム入力時に選択ください。  
※期限までにお申し込みされた方には、参加方法を追ってご連絡いたします。



琉球大学島嶼地域科学研究所

島嶼地域科学研究所

2024年度レクチャーシリーズ第2回

# Shuri Castle: A Monumental Vision of Third Space in Okinawa

首里城：  
モニュメントが織りなす沖縄の〈第三の空間〉

講演者：Leah Wasil氏  
琉球大学島嶼地域科学研究所・客員研究員  
ハワイ大学博士課程

2024  
日時 10/21 (月) 10:20~11:50

講演  
形式 対面（RIIS会議室）・オンライン（Zoom）ハイブリッド形式

琉球大学島嶼地域科学研究所

1. RIIS レクチャーシリーズ 2024 ポスター

琉球大学島嶼地域科学研究所レクチャーシリーズ  
2024年度第3回

1970年代韓国人サトウキビ刈り労働者の  
記録と記憶

—南北大東島を中心に—



1970年代の南北大東島には、サトウキビ刈りや製糖に従事するため、多くの韓国人季節労働者が渡っていた。その実態に  
関してはまだわからないことが多く、特に韓国においては忘れられた事実と言っても過言ではない状況だという。東アジア  
国際関係の変動に強く規定されたこの問題について、日韓に残された数少ない記録と、島の人々の記憶を結びながら研究活  
動を進めている原智弘先生をお招きして、ご講演いただきます。ふるってご参加ください。

令和6年 11 月 1 日【金】

時 間 13：00～14：30

講演形式 対面・オンラインハイブリッド形式

講演会場 琉球大学附属図書館2F ラーニングコモンズ  
(対面参加の場合)

参加費 無料 (要事前申込)

申込方法 右記のQRコード、或いは下記URL先のフォームからお申し込みください。

申込締切 2024年10月25日(金) 正午

フ ェ ェ ム <https://forms.gle/Enwof5AWGJLXrZvAA>

講演者

Tomohiro Hara

原 智弘 先生

帝京大学外国語学部外国語学科  
教授



※対面、オンラインのいずれかを申込みフォーム入力時に選択ください。  
※期限までにお申し込みされた方には、参加方法を追ってご連絡いたします。

主催：琉球大学島嶼地域科学研究所

島嶼地域科学研究所

2024年度第4回レクチャーシリーズ

## 自然史系博物館における 研究資料の現状と利活用について

講演者：佐藤崇範氏

（島嶼地域科学研究所客員研究員、能登里海教育研究所研究員）

日時：2024年12月13日（金）13:00～14:30

方法：オンライン（ZOOM）

自然科学の研究が研究活動の過程で作成・収受した「研究資料」は、多様な研究分野における貴重な学術資源として価値が認められているものの、その多くは研究者の自宅や元所属機関等に残されたまま、有効に利活用されることなく、散逸・消失の危機に瀕している。

本発表では、国内の自然史系博物館等に対して実施した「研究資料」に関するアンケート調査の結果から、その現状を明らかにするとともに、特にフィールドワークの記録は調査地域の地域資源としても有効に活用できることを実例とともに紹介する。

1. RIIS レクチャーシリーズ 2024 ポスター

琉球大学島嶼地域科学研究所レクチャーシリーズ  
2024年度第5回

島嶼学の視点から  
動物論的転回を考える

この約20年の間、二つの学際分野が、様々な学会誌、研究所、学会の創立を通して、新たな先進分野として急成長した。島嶼学に係る論壇はすでに成長されてきた人文社会的なテーマのいくつか、例えば脱植民地主義、資本主義と自由主義、黒人研究、フェミニズム学、環境人文学等と関わりながら、地球上の諸島嶼の視線から新たな学際的検討をもたらしてきた。この講演では、諸分野に跨がる動物論的転回から近年に広がって来た理論を考え、鳥獣そして動植物の社会性が島嶼学にどう貢献できるかを議論する。

講演者： Aaron Hopes氏  
(琉球大学島嶼地域科学研究所・客員研究員  
スタンフォード大学人類学部・博士課程)



令和6年 12 月 23 日【月】

- 時 間 13：00～14：30
- 講演形式 対面・オンラインハイブリッド形式
- 講演会場 琉球大学附属図書館2F ラーニングコモンズ  
(対面参加の場合)
- 参加費 無料(要事前申込)
- 申込方法 右記のQRコード、或いは下記URL先のフォームからお申し込みください。
- 申込締切 2024年12月16日(月)正午
- フ ォ ーム <https://forms.gle/TX7KoHCdf7EfCQRg8>



※対面、オンラインのいずれかを申込みフォーム入力時に選択ください。  
※期限までにお申し込みされた方には、参加方法を追ってご連絡いたします。

主催：琉球大学島嶼地域科学研究所

琉球大学島嶼地域科学研究所  
レクチャーシリーズ2024年度第6回

# 太平洋島嶼国における 戦後の国際貿易から ー近年における観光開発と経済発展に関する考察ー

**3.11** Wed  
**15:00-16:30**

太平洋には多くの島嶼国がありますが、ミクロネシア、メラネシア、ポリネシアの3つの地域に分けられます。国を構成する島の状況や人種の特徴を由来としていますが、戦前戦後の植民地統治や援助の歴史から、大雑把にはミクロネシアはアメリカ、メラネシアはオーストラリア・ニュージーランド、ポリネシアはフランスの影響を受けており、その視点も踏まえ、国際貿易や国際観光の観点から考察したいと思います。



**講師 梅村 哲夫 先生**  
名古屋大学大学院  
国際開発研究科 国際開発協力専攻  
教授  
博士（学術）

- ・ 講演形式：対面・オンラインハイブリッド形式
- ・ 講演会場：琉球大学附属図書館2F ラーニングcommons  
(対面参加の場合)
- ・ 日時：2025年3月11日（火） 15:00～16:30
- ・ 参加費：無料（事前登録が必要です）
- ・ 登録方法：右下のQRコード、あるいは下記URL先のフォームからお申し込みください。
- ・ 申込締切：2025年3月3日（月）正午
- ・ フォーム：<https://forms.gle/GnR1y2EweEK7mMcv5>

※対面、オンラインのいずれかを申込みフォーム入力時に選択ください  
※期限までにお申し込みされた方には、参加方法を追ってご連絡いたします。





# RIIS

2024 年度 島嶼地域科学研究所 所報  
RIIS Annual Report 2024

---

2025 年 10 月 1 日 発行

編集・発行

国立大学法人 琉球大学

研究共創機構 島嶼地域科学研究所

Research Institute for Islands and Sustainability, University of the Ryukyus

〒 903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原 1

1, Senbaru, Nishihara, Okinawa, Japan, 903-0213

Tel. 098-895-8475 Fax. 098-895-8308

HP. <https://riis.skr.u-ryukyu.ac.jp/>